

# 第3回大川フォーラム

夏休み大川自由研究室から考えるこれからの大川  
—大川等整備の基本的考え方の具体化に向けて—



「夏休み大川自由研究室」（テーマ：「食から知る大川の暮らしと自然」）での大川での小魚捕り



「夏休み大川自由研究室」（テーマ：「食から知る大川の暮らしと自然」）での竹を使った水鉄砲教室

守山市美崎自治会館

平成26年2月1日（土）13:30～16:00

主催：大川活用プロジェクト

美崎自治会、守山市、立命館守山高等学校、京都大学（生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所）

## 平成25年度 大川活用プロジェクト活動報告書

美崎自治会、守山市、立命館守山高等学校、

京都大学（生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所）、

京都大学 地の拠点事業（KYOTO未来創造拠点整備事業—社会変革期を担う人材育成）

## 目 次

		頁
第3回大川フォーラムの開催にあたって	大川活用プロジェクト	1
<b>第一部 報告</b>		
1 「夏休み大川自由研究室」の報告	大川自然博物館研究会代表	3
	子ども代表	8
2 大川への期待（高校生の視点から）	立命館守山高等学校サイテック部	9
3 大川への期待（幼児教育の視点から）	速野幼稚園	13
4 大川の取組み報告と今後の課題	美崎自治会	17
5 まちづくり活動における行政のかかわり（協働）	守山市	22
<b>第二部 パネルディスカッション</b>		
第3回大川フォーラム（パネルディスカッション）	議事録	25
<b>巻末資料</b>		
1 第3回大川フォーラム 開催要項		37
2 第3回大川フォーラム チラシ		38
3 大川等整備の基本的考え方		39
4 平成25年度版 里川里湖のまちづくり 実施計画書		43
5 アジアの農村開発と大川の取組み	安藤和雄（京都大学東南アジア研究所）	51
6 平成25年度活動記録		52
7 『美崎寄り合い』 会議録		53
8 大川だより（第6号）		76
9 新聞広報等掲載記事		78
10 大川フォーラムアンケート用紙		80
11 大川フォーラムアンケート集計結果		81

### 第3回大川フォーラムの開催にあたって

大川フォーラムは今回で3回目になります。1回目は平成23年12月に「里川・里湖（うみ）のまちづくり—住民・研究・行政の協働—」をテーマに、2回目は25年1月に「これからの大川を語る」をテーマに開催しました。3回目となる今回は「夏休み大川自由研究室から考えるこれからの大川—大川等整備の基本的考え方の具体化に向けて—」をテーマにしました。1回目は取り組み体制について、2回目は取り組みの方向付けについて、そして3回目は具体的な取り組みを議論することになります。

今回のこのテーマには大きく二つの課題があります。

一点目は、昨年（平成25年）8月に開催した「夏休み大川自由研究室」のさらなる充実発展についての意見交換です。夏休み大川自由研究室は、子ども達の学齢に応じてびわ湖や大川に生息する魚や漁、畑作の夏野菜収穫などを体験・学習する取り組みですが、子ども達が大川とその周辺の自然や産業を学び、地域に親しみ、様々な人びとと触れ合うなど大きな意義があったと考えています。今回のフォーラムでは高校生の皆さんや幼児教育の視点、さらには保護者の皆さんの声もお聞きしながらこの取り組みがより充実したものとなるよう議論を深めたいと願っています。そのうえで、大川とその周辺の資源を活かし子ども達の育ちを支援するこの取り組みを「大川自然博物館」とも言える内容に高め、守山市北部の発信と魅力化に寄与したいと考えています。

今一つの目的は、大川の水環境の改善への道筋づけです。水環境の改善は大川活用プロジェクト最大の課題です。水草の除去や植生浄化の試行などの取り組み段階から次の新しい一歩を議論するのがフォーラムの重要なテーマです。

他に例を見ない研究者、教育者、行政そして地域組織の4者が連携を深めながら大川の環境改善と活用の取り組みを始めて3年が経過しましたが、今回は子どもの育ちや地域文化の創造まで議論の幅を広げることになりました。

引き続き大川活用プロジェクトへのご支援をお願いします。


大川活用プロジェクト



「夏休み大川自由研究室」の報告

大川自然博物館研究会代表

①



# 大川自然博物館研究会 活動報告

平成26年2月1日

②

## 大川自然博物館研究会の概要


〈設立〉 平成25年5月1日  
ボランティア団体とし発足

〈活動場所〉 大川流域一帯

〈目的〉 大川が所在する守山市北部地域は児童・生徒数の増加に加え多くの自然が残っています。  
こうした事から私達は大川周辺を『自然博物館』と位置付け児童・生徒達が自然に触れ、親しみ、体験しながら楽しく学び、様々な人々と交流する機会を提供すると共に、自然資産の資料を編集・発行する事を目的とします。

③

平成25年8月3日 夏休み大川自由研究



### 活動テーマ

## “食から知る大川の暮らしと自然”

- ★参加児童を3グループに分け体験学習
  - Aグループ 琵琶湖で漁の体験 5・6年生
  - Bグループ 大川で小魚獲り体験 3・4年生
  - Cグループ 夏野菜の収穫体験 1・2年生と幼稚園児
- ★大川周辺の竹で作ったおもちゃで遊ぶ
- ★昼食 流しソーメン・収穫した夏野菜と川魚料理を楽しむ
- ★座学 『大川周辺と東南アジアの農業・漁業を学ぶ』  
京都大学 安藤先生・ミャンマーの人達



④


### 準備作業



大変暑い中ご苦労様でした！



流しソーメンの準備



竹打楽器の制作



流しソーメン完成！

竹の器とお箸



⑤

### 受付・オープニング

受付開始



竹の楽器でオープニングセレモニー



みんな話を良く聞いて！



⑥

### Aグループ 琵琶湖で漁の体験

初めて漁船に乗って



暑さも忘れて！



何が獲れてるかな？



大きいぞ！





⑦

**Bグループ 大川で小魚獲り体験**

屋形船に乗って

つけシバ漁

何が入っているかな？

獲ったぞー！



This section features a blue background with several photographs and a cartoon character. The top left photo shows a long boat with a roof on a river. The top middle photo shows a person in a boat using a net to catch fish. The top right photo shows children on a boat. The bottom left photo shows children in yellow vests. The bottom right photo shows a person holding a net. A cartoon character in the center has a speech bubble saying '獲ったぞー！' (I caught it!). Another speech bubble above says '何が入っているかな？' (What's inside?).

⑧

**Cグループ 夏野菜の収穫体験**

トウモロコシ

トウガラシ

ん！キュウリ？

ナス

キュウリ



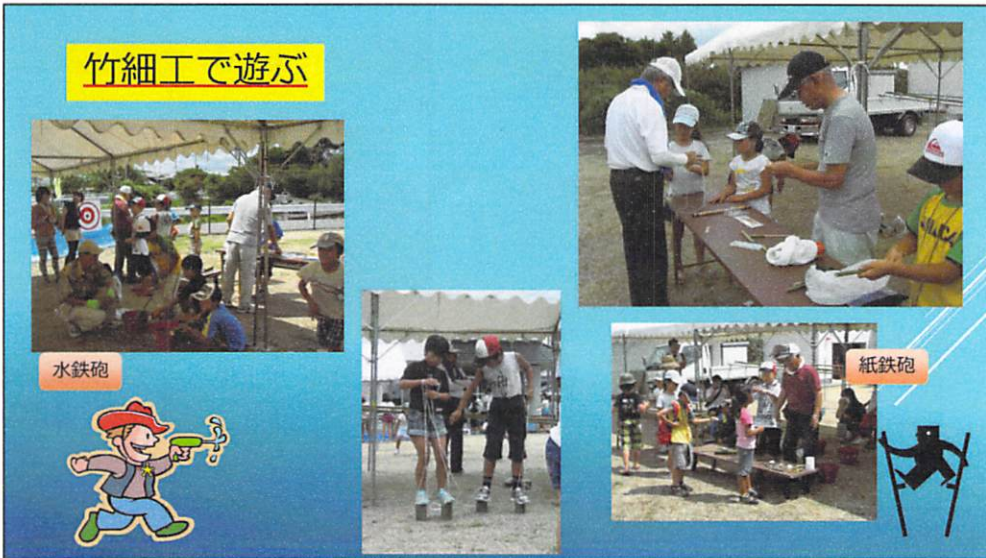
This section features a blue background with several photographs and a cartoon character. The top left photo shows children in a field with corn. The top middle photo shows children in a field with peppers. The top right photo shows a child holding a cucumber. The bottom left photo shows children in a field with eggplants. The bottom middle photo shows children in a field with cucumbers. The bottom right photo shows a child holding a cucumber. A cartoon character in the center has a speech bubble saying 'ん！キュウリ？' (Huh! Cucumber?).

⑨

**竹細工で遊ぶ**

水鉄砲

紙鉄砲



This section features a blue background with several photographs and a cartoon character. The top left photo shows children playing with water guns. The top right photo shows children playing with paper guns. The bottom left photo shows children playing with water guns. The bottom right photo shows children playing with paper guns. A cartoon character in the center has a speech bubble saying '水鉄砲' (Water gun) and '紙鉄砲' (Paper gun).



⑩

### 楽しい昼食タイム



収穫した野菜料理

流しソーメンに舌鼓



川魚料理

⑪

### 獲った小魚の観察



獲れたのはどれかな？

ヨシノボリ



ハス



テナガエビ



オイカワ



⑫

### 座学 (ミャンマーの食と文化) (大川・琵琶湖で獲れた魚)

ミャンマーの人から



ハイ!

今日何が獲れたかな？





⑬

**子供たちへのアンケート**

回答者数 37人

次の質問に一番当てはまる答えに○をしてください	人数
1. 今日は楽しかったですか。	
①楽しかった。	36人
②楽しくなかった	0人
③わからない	2人
2. 一番興味を持ったのはどれですか。	
①体験教室で捕らまえた魚や収穫した野菜	10人
②色々な使い方ができる竹	9人
③お昼に食べた流しソーメンや川魚	19人
④お話教室で聞いた外国の話	8人
3. 来年も開催してほしいですか	
①開催してほしい	33人
②開催してほしいと思わない	0人
③わからない	4人
4. 今日学んだ事を夏休みの自由研究のテーマにしますか。	
①テーマにする	15人
②別のテーマにする	5人
③まだわからない	17人

**夏休み大川自由研究を開催して**

昨年の夏は特に厳しい暑さでした。そんな中、大勢の子供たちが参加をしてくれました。プログラムの中では私たち大人が考えている以上に全ての事に興味と好奇心を持って、真剣に取り組む姿に感心させられ、また、地域の自然に触れ、色々な体験をし理解もし、楽しく・有意義な一日であったと思います。

最後になりましたが、準備から当日の進行まで多数の方々のご協力・ご苦勞に心より感謝申し上げます。また、漁船・野菜畑等ご提供いただいた方々にも御礼申し上げます。ありがとうございました！！

⑭

ご報告をおわります

ありがとうございました

今年も活動を是非開催したく思います。



## 「夏休み大川自由研究室」の報告

子ども代表

### ○夏休み大川自由研究室に参加して

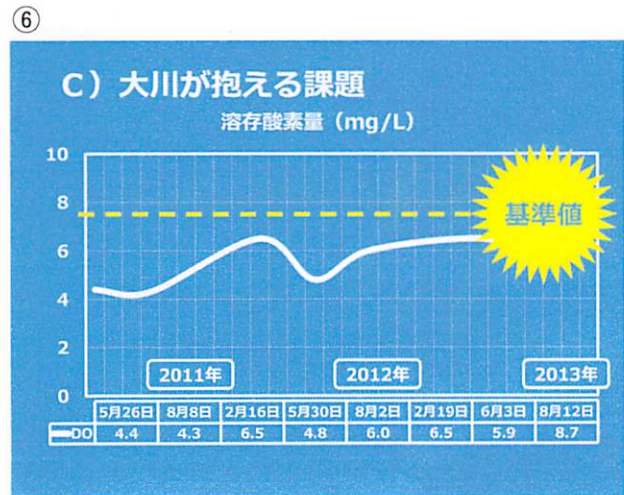
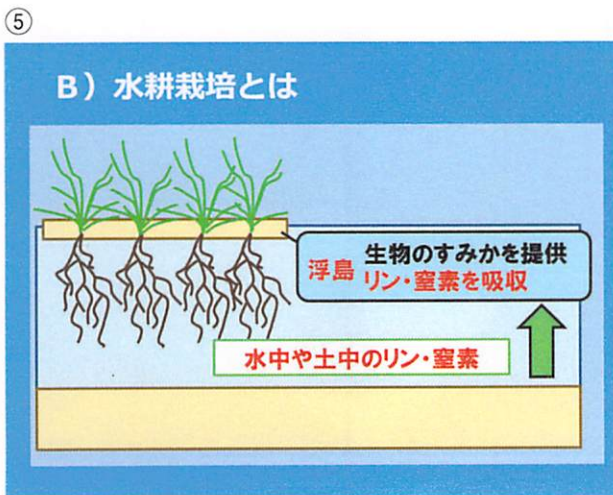
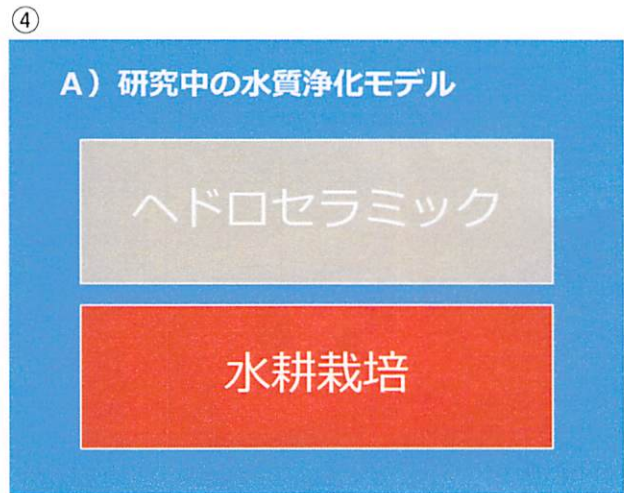
- ・楽しかったことは、船に乗って琵琶湖に出られたことです。  
初めて船に乗って、漁の体験をさせてもらいました。  
最初は緊張もしましたが、とても良い経験をすることができました。
- ・私の妹は、夏野菜の収穫体験に参加しました。家に帰ると、妹は自分が収穫した野菜を持って、「早く食べてみよう」とうれしそうに言っていました。
- ・妹には、大きくなったら船に乗せてもらえるよと言ってあげると、とても楽しみにしていました。
- ・「ミャンマーの人々の生活」についてのお話も大変勉強になりました。
- ・来年もぜひ開催して欲しいと思いました。

### ○夏休み大川自由研究室に参加して感じたこと

- ・夏休み大川自由研究室を通して感じたことは、大川には、いろいろな生物が生息していたことです。  
これまでに見たことがない魚やエビなどを見つけることができました。
- ・昔は、もっと多くの魚などがいたそうですが、今はあまりいませんでした。
- ・昔のように、多くの魚がとれる川、水遊びが出来る川に戻るといいなあと思います。
- ・流しそうめんや竹細工なども、初めて体験させてもらうことができました。いろいろな体験が出来て本当に楽しい1日でした。
- ・来年もぜひ参加したいと思いました。

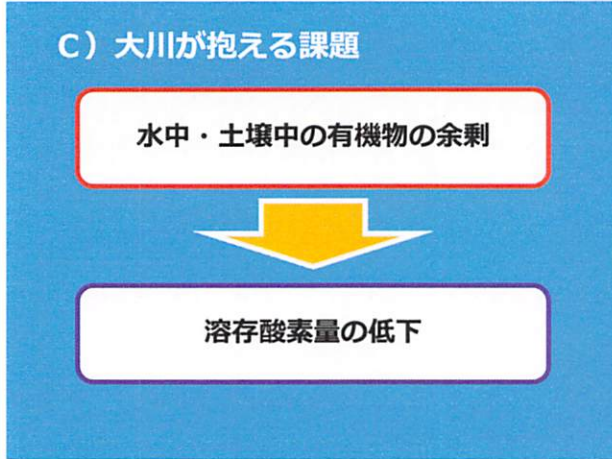
## 大川への期待（高校生の視点から）

立命館守山高等学校サイテック部

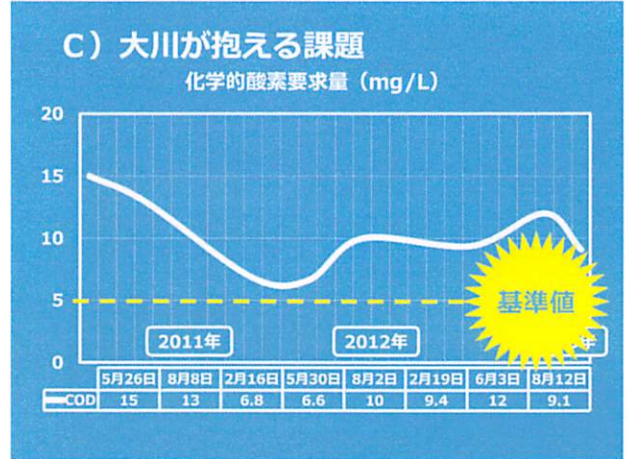




⑦



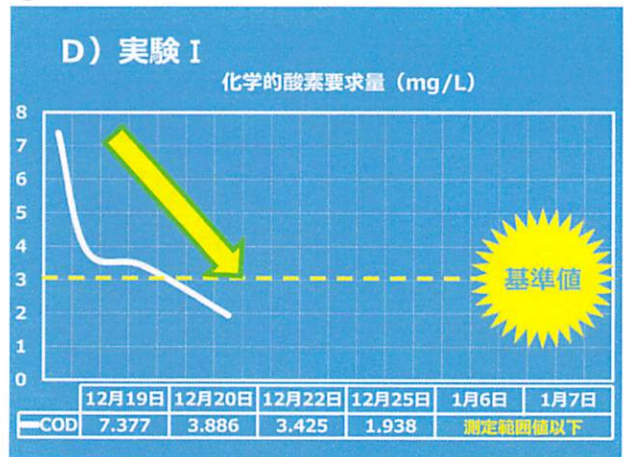
⑧



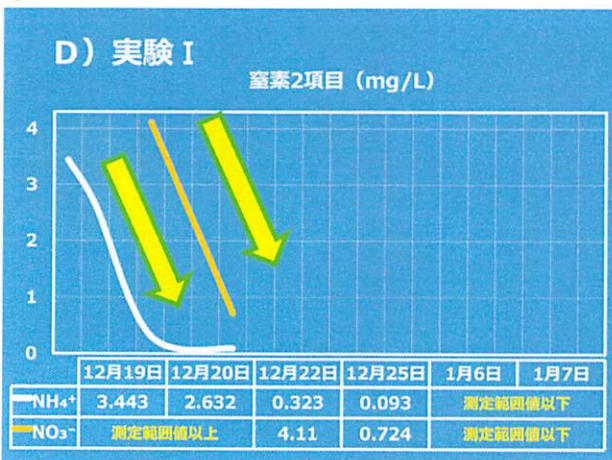
⑨



⑩



⑪

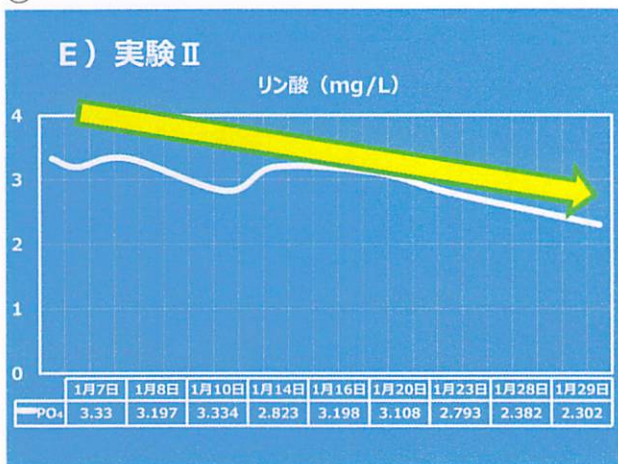


⑫





13



14



15

**夏休み大川自由研究室**

- ①開催日時 2013年8月3日
- ②参加者 およそ50人
- ③内容

- A) 体験教室
  - a) 琵琶湖での漁業体験
  - b) 大川での小魚採取体験
  - c) 夏野菜収穫体験
- B) 竹細工教室
- C) 「流しそうめん」「川魚料理」  
「夏野菜の素焼き」「スイカ」  
など



16

**全国高校生水環境研究活動交流会**

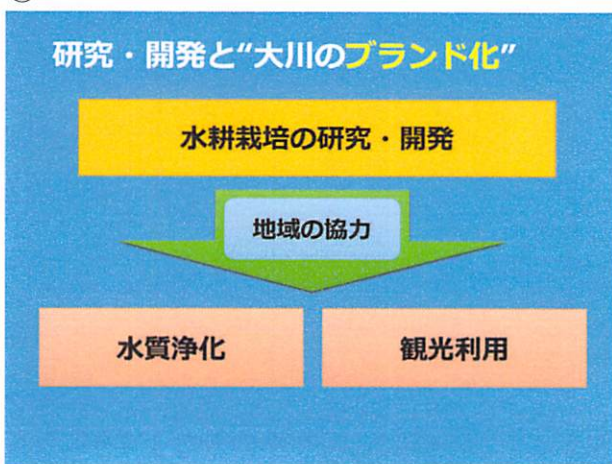
- ①開催日時 2013年8月16・17・18日
- ②参加者 神奈川・静岡・京都・兵庫・滋賀の高校生56校75名
- ③内容 各校20分のプレゼンテーション、ポスターセッション、琵琶湖博物館見学、大川見学・地域交流シンポジウム



17



18





⑱



㉒

大川活用プロジェクト

||

水質の浄化、生き物の住みかの確保だけではなく、  
教育活動や地域交流の場になる  
「里川」としての水環境をトータルアプローチし、  
それを対外的に発信していく

㉓



## 大川への期待（幼児教育の視点から）

速野幼稚園

①

### 大川プロジェクトに期待すること （幼児教育の視点から）

守山市立速野幼稚園

②

### 園の生活で大事にしたいこと

- ◎心豊かでたくましく生きるちからの基盤づくり
  - ・夢中になって遊ぶ
  - ・心が揺れ動く体験をする
  - ・相手の思いに気づき、自己コントロールしようとする
  - ・集団の中での約束がわかり、守ろうとする
- ◎人として生きるための基本となる生活習慣の確立
- ◎健康な心と体づくり

③

### 地域とのつながり 心揺れ動く体験

- ◎自然とのかかわり  
己爾野神社 地球市民の森 太皇神社  
なぎさ公園 みさき公園 樹下神社
- ◎畑のおじさんとかかわり  
さまざまな収穫体験
- ◎地域の高齢者や未就園児、小学生とかかわり
- ◎園内でのさまざまな体験活動

④

### 大川ってどこ？

まずは、職員が大川について知ることから始めよう

↓

大川フォーラムへの参加  
美崎 寄り合いへの参加

↓

大川の歴史について知りたい・伝えたい

⑤

### 「私たちのふるさと・大川」へと 育てるために・・・

ここが大川か、でも・・・ 用じやないみたい

何だか前よりきれいになってきたよ あの川で遊びたいなあ

きれいなお花が咲いてる！サリカニいるよ！

ぼくら・わたしたちの大好きな場所だよ！

心のふるさと「大川」へ

繰り返して出かける中で

⑥

### 平成26年度は・・・ （幼稚園でできること）

- ◎大川の歴史について知る  
幼児にも理解できるように ー 紙芝居の作成
- ◎身近な場であるという気持ちを育てる。  
ー 何度も繰り返し同じ場所に出かける。



⑦

## 将来の大川に期待すること ～幼児の目線で～



⑧



⑨





⑩



この木には、セミやクワガタ・カブトも  
いるよ！大きな木の下には、やさし  
い風も吹いてくるんだ！

⑪



大川は、みんなが遊ぶ浅瀬もある  
し、小型のエリだつてあるんだ。大  
人も子どもも大川はみんなの大好  
きな遊び場所！

⑫



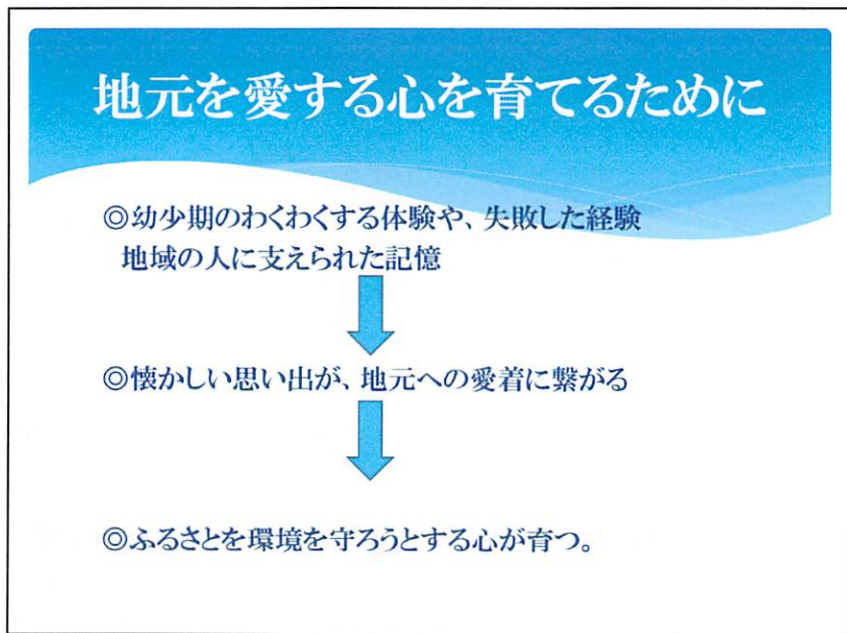
お父さんやお母さんといっ  
しょに、球根を植えるよ。  
お花の並木道みたいにな  
るといいなあ！



⑬



⑭



⑮


みんなの思いを  
この大川に・・・

## 大川の取組み報告と今後の課題

美崎自治会

①

### 大川の取組み報告と今後の課題




平成25年4月～12月期実績  
美崎自治会

②

### ◆ 本日の報告内容

- 1. 大川プロジェクトについて**
  - ・全体計画とこれまでの活動
  - ・全体整備構想の詳細図
- 2. 本年度の取組み内容の報告**
  - ・水草除去と環境整備活動
  - ・夏休み大川自由研究室の開催
  - ・子ども環境調査
  - ・湖魚の稚魚を放流
- 3. 取組み実績と今後の課題**



自治会館から見た大川

③

### ◆ 大川活用プロジェクトについて

平成23年に発足した大川活用プロジェクトは、立命館守山高校・守山市・京都大学生存基盤科学研究ユニット\_東南アジア研究所・美崎自治会で構成されており、守山市北部にある準用河川 大川や周辺の環境保全と地域の活性化を目指した様々な取組みを行ってきました。



大川の環境改善について議論



大川フォーラムでこれからの大川について意見交換



④

### 全体計画とこれまでの活動

①全体スケジュール 表1. 大川プロジェクト活動計画 継続:計画 実績:実績

平成23年度	24年度	25年度(本年度)	26年度	27年度
大川の価値再評価期間				
全体構想の構築期間				
		全体構想具現化(河川敷の整備・川運の空路・植生の回復・環境用水確保等)の推進		

②大川の価値を再評価すると共に全体構想を構築 (H23～H24年度)

- ・大川への関心を高める取組みを幅広く実施
- ・水草除去や環境保全活動を継続
- ・水質や生物などの科学的調査と共に地域の中でどの様に意識されてきたかを調査
- ・実証実験などを通じて改善手法を検討
- ・大川や周辺環境を活用したまちづくりの将来像を全体構想として取りまとめ

◆H25年度以降は、将来構想に基づき「大川等の整備計画」を策定

⑤

### 全体整備構想の詳細(構想図)

◆基本方針

- ①水質と生態系の改善回復
- ②上・中・下流の3つのゾーンに区分し、特性に応じた環境整備を実施
- ③大川とその周辺地域の多様な資源を地域の魅力化や活性化に活かす

オープンミュージアムゾーン  
(青色破線部)  
地域の多様な資源を環境学習と地域間交流に活用

河口部ゾーン  
湖と川の水量を楽しむ憩いと交流の拠点として整備

回廊ゾーン  
大川再生ゾーンと河口部ゾーンを結ぶ回廊ゾーンと位置付け川沿いの修景や沿道の環境整備を推進

再生ゾーン  
砂浜があり、水が流れ、小魚が泳ぐ川を再現し、子ども達が水に触れ川を楽しめるゾーンとして整備を推進

⑥

### 本年度(H25年度)の取組み

⑦

### ◇ 水草除去と環境整備活動 (4月～11月:全6回)

大川の水草除去・河川清掃・河川敷整備・竹伐採・草刈りを実施

⑧

### ◇ 夏休み大川自由研究室の開催 (8/3)

実際の漁船に乗り込み漁業を体験  
仕掛けの仕組みについて熱心に聴く子ども達  
とうもろこしの収穫  
安藤先生から具置の食文化について学ぶ  
大川周辺の竹で作った流しそうめん  
竹細工に楽しむ子ども達

⑨

### ◇ 夏休み大川自由研究室の開催 (まとめ)

表2:子ども達へのアンケートを実施 (回答者数:37人)

次の質問に一番当てはまる答えに○をしてください	人数
1. 今日楽しかったですか。	
①楽しかった	35人
②楽しなかった	0人
③わからない	2人
2. 一番興味を持ったのはどれですか。	
①体験教室で捕まえた魚や収穫した野菜	10人
②色々な使い方ができる竹	9人
③お昼に食べた流しそうめんや川魚	19人
④お話教室で聞いた外国の話	8人
3. 来年も開催してほしいですか。	
①開催してほしい	33人
②開催してほしいと思わない	0人
③わからない	4人
4. 今日学んだことを夏休みの自由研究のテーマにしますか	
①テーマにする	15人
②別のテーマにする	5人
③まだわからない	17人

表3:体験学習のグループ別収穫内容

琵琶湖 漁業体験	大川 魚つかみ体験	夏野菜の収穫体験
テナガエビ	ヨシノボリ	キュウリ
スジエビ	テナガエビ	トウガラシ
オイカワ	ザリガニ	ナス
ハス	タニシ	スイカ
ブラックバス		トウモロコシ
ブルーギル		

当日は大盛況の日でした

以上です。ありがとうございました。



⑩

### 子ども環境調査 (8/20)

水質調査と生物調査について立命館守山高校の先生と生徒達に講義を頂きながら実施

調査内容の説明

透視度・COD・窒素・リン等について機器やバックテストで調査

調査内容のまとめ

大川環境学習会の様子

水質調査(溶存酸素)

生物調査2(大川の生き物)

生物調査1(大川の生き物)

⑪

### 子ども環境調査 (まとめ)

表4 大川と琵琶湖の水質を調査し水中の生物を調査

水質調査 I	大川(自治会館横)の水	琵琶湖の水
透視度	10cm	90cm
COD	8mg/L以上	6.5mg/L
窒素	0.2mg/L	0.5mg/L
リン	0.1mg/L	0.02mg/L

水質調査 II	大川(自治会館横)の水	水道の水
溶存酸素	8.2mg/L	5.2mg/L
P H (酸性/アルカリ性の度合)	6.91	7.35

生物の調査	大川(自治会館横)の水
プランクトン 魚類・両生類など	節足動物プランクトンの仲間 (ミジンコ類・テトラスポラ・ヒザオリ等) ギンブナ・ミドリガメ・ブラックバス・ブルーギル

⑫

### 湖魚の稚魚を放流

生態系の改善・回復の為にフナやワタカの稚魚を大川へ放流

ビニール袋に入った魚の稚魚

サギに食べられるなよ。

⑬

### ◆ 取組み実績

表5. 大川環境改善に関する取組み実績

月日	活動内容	参加人数	備考
4月20日	第一回水草除去活動	15人	
5月 6日	第二回水草除去活動(上流部河川整備)	31人	
7月21日	第三回水草除去活動(上流部の竹除去及び草刈り)	52人	
8月 3日	夏休み大川自由研究会の開催 (調査項目) ・大川と琵琶湖の生物調査及び周辺の竹を使った竹細工 ・大川周辺の夏野菜収穫体験と東南アジアの食文化について	約120人	H25年度 守山市民協働型 まちづくり支援事業テーマ 大川自然博物館研究会
8月17日	第四回水草除去活動(水草除去及び草刈り)	21人	
8月20日	子ども環境調査 (調査項目) ・大川と琵琶湖の水質比較及び大川の生物調査	21人	環境学習会まとめ 立命館守山高等学校
9月 1日	フナ・ワタカの稚魚放流	自治会員	
10月27日	第五回水草除去活動(水草除去及び草刈り)	自治会参加	
11月24日	第六回水草除去活動(河川清掃及び護岸草刈り)	自治会参加	
11月24日	もりやま市民活動館台村 ・夏休み大川自由研究会開催事業中間報告	研究会参加	H25年度 守山市民協働型 まちづくり支援事業テーマ 大川自然博物館研究会
2月 1日	第三回大川フォーラム(みさき百科配布:歴史や自然を紹介)		

【特記事項】 ※整備構想を検討する為の大川プロジェクトの全議(寄合い)を原則月1回開催

⑭

### ◆ 今後の課題

◆平成24年に確認した「大川等整備の基本的考え方」の実現に向けて


① 大川導水計画の取組み

- ・大川上流部へ他水系からの導水を行ない水質改善を図る

② 大川とその周辺環境の活用方法

- 「大川再生ゾーン」と名付けた水辺空間の再生と環境整備について
- ・河川敷の整備 ・植生の回復 ・川道の改修工事など
- 大川が持つ自然的価値及び社会的価値をどの様に活かすのか

上記を次年度以降にどのような形で繋げていくのが当面の課題



⑮






まちづくり活動における行政のかかわり（協働）

①

～まちづくり※活動における  
行政のかかわり（協働）～

「大川活用プロジェクト」から



守山市 未来政策課

※ まちづくりとは、地域がそこに住む住民にとって、より住みやすい環境となるよう、地域課題解決のためにハード・ソフト両面から改善を図る取組のこと

②

## 一般的な協働の取組

（那覇市「市民と行政の協働」の考え方より 一部修正）

主 体	市 民	市民と行政の双方	行 政
目 的	市民によるまちづくり活動の進展	市民と行政の特性が発揮されよりよく実施できる	事務・事業の改善や市民感覚の導入
市民の協働内容	自主活動、事業受託、ボランティア、補助金を活用したまちづくり活動の実施、市政への参画 など		
市の協働内容	①場所・設備等の使用にあたっての便宜の供与 ②情報等の提供、コーディネート ③補助・助成・奨励金等の拠出 ③補助・助成・奨励金等の拠出 ④後援 ⑤負担金の拠出 ⑥共催事業（イベント、実行委員会への参加等） ⑦連携事業（関係団体と合同の街頭指導など） ⑧行政事業・事務の委託（請負委託、管理・運営委託） ⑨行政業務の委任（許可等の処分権の一部も委ねるもの、指定管理者制度など） ⑩審議会等への有識者の参加 ⑪行政サポート・ボランティアの機会設置 ⑫広聴・意見聴取等への市民等の参画（市民委員会、アンケート、パブリックコメント等）・・・など		
累 計 等	①②③④など （民提案型まちづくり支援事業、 「わ」で輝く自治会応援報酬金 など）	⑤⑥⑦⑧⑨など （大川水草除去委託 など）	⑩⑪⑫など （まるごと活性化検討委員会 への参加 など）

**「大川活用プロジェクト」は、新たな協働の取組として実施**

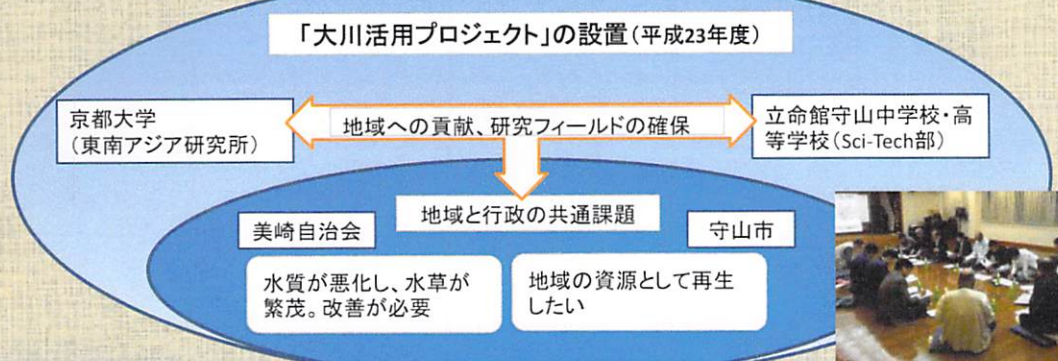


③

## 「大川活用プロジェクト」

地域課題解決に向け、地域、学術機関、行政が同じ舞台・目線で取組を推進!!

それぞれの役割分担の中、調査、研究等の基礎的な検証から、水草の除去や水質改善に向けた実証実験、学習会やフォーラム等を実施。



平成24年度から、定期的な協議の場「大川寄り合い」(月1回)を開催。  
年度末には大川再生活活性化に向けた「大川の将来構想」を取りまとめ

④

## 大川活用プロジェクトの特徴(まとめ)

- 学術機関の参画による専門的知見の活用
- すべての主体(地域、行政、学術機関)がフラットな話し合いの場の存在 ←大川寄り合い
- 学習会やフォーラム、水草除去・
- 水質改善等の具体的事業の実施
- 調査、検討段階から将来構想作成  
・提案まで一貫して実施



地域課題解決に向けた合意形成と、事業等を協働で並行実施。  
このことで、それぞれの役割分担も明確になり、よりよい将来の実現に向け、より具体性がある取組が展開。

→本プロジェクトをモデルに琵琶湖でも「赤野井湾再生プロジェクト」を展開中



## 第二部 パネルディスカッション

### 第3回大川フォーラム（パネルディスカッション） 議事録

- ・日時 平成26年2月1日（土） 午後1時30分から4時まで
- ・場所 美崎自治会館（守山市今浜町2761-35）

#### （開会）

司会 今回のパネルディスカッションの進行をお願いしている安藤先生におかれましては、この大川活用プロジェクトに研究者として当初から参画をいただき、プロジェクトの中心メンバーとしてあらゆる取組に参加し、助言をいただく等、当プロジェクトの推進にご尽力をいただいているところです。本日も、アジアの農村開発と大川での取組との比較を交え、今後の大川の課題について整理をしていただきます。この後の進行を安藤先生のほうにお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願ひいたします。

安藤 皆さん、こんにちは。今年で大川フォーラムは3回目になります。今から一時間弱のパネルディスカッションを始めます。このセッションは、できれば皆さんにも参加してもらうのがいいと思います。最初に、意見書を書いていただきましたので、内容をひとつお読みさせていただきます。これらの意見以外に、皆さんからのご意見がありましたら頂戴し、それに答えるといった形で進めさせていただきます。

「地域の皆様や周辺の学校が積極的に活動しているのに、メディアの注目度が低いので、もっと全国的に美崎を知ってもらいたいと思いました。」

「大川の水を使い、立命館の試作のヒヤシンスのような、夏休みの課題に花づくりをしたらどうかと気がついた。」

「大川の周りには竹が多いので、それでいかだをつくってレースとかをすると、いかだののってレースする人やその人を応援する人とかでたくさんの人が関われると思います。また、大川に生息する魚たちをつかまえて小さい水族館（いくつかの水槽に入れる）をつくったりすると子どもがもっと大川に興味を持ち、もっと地域に広がっていくと思います。」

「本来の河川として復元し、清流の流れを再現する。子ども達が訪れて楽しめるゾーン、大人も大パノラマを観賞、家族が憩える居場所に、そして自治会交流が深まれば。」

「大変すばらしい取組だと思います。」

「地域の資源を活用して、子どもから成人まで巻き込んだ活動されていることは、素晴らしいと思います。また、活動を通して愛郷心を育むことになれば更に good。欲を言えば学区民の取組となれば！！」

「これまで立命館守山と美崎自治会が別々の水質改善の取り組みをしていましたが、一緒にやっていきたいです。」

「小学校や幼稚園と協力して、写生大会などをしてみる。」

「釣りなど、大川付近の地域外の人を取り込むイベント（ごみ拾い等をイベントに取り入れる）」

「イベントをテレビ（地域のニュースなど）を通じてPRすることで、対外的に注目されることが重要だと思います。」

「これからも大川活用プロジェクトを続けていただき、大川が昔のようにきれいになり、

昔にいた魚が戻ってくるよう、皆さんと協力して取り組んでいきたいなと思います。」

「これほどまで大がかりなプロジェクトであるということに驚いております。今後とも参加させていただきます。」

「シダックスですか・・・自然環境・再生とは、およそ結びつかない企業に思われますが・・・」

以上です。読み上げさせていただきました。この他に、もし今この場で意見を言いたいという方がいらっしゃいましたらよろしくお願ひします。もしなければ、今のご意見を踏まえて、パネラーの方に、それぞれ発表をしていただきます。それでは、伊藤さんからよろしくお願ひいたします。

伊藤 いくつかの意見をいただいたので、少し感想を言いたいと思うのですが。その前にちょっと余談を言いますと、3、4年前によく聞いた話なのですが、守山駅周辺の子もたちは、時間があると図書館に行く、速野の子もたちは時間があるとピエリに行くという。本当は、そんなことはないですね。駅周辺の子もたちだって、時間があればらぼ一とに行くでしょうし、速野の子もたちだって、時間があれば図書館に行く。けれども、教育環境、育つ環境という意味では、一面そういうきらいもありますね。とはいっても、速野に図書館つくりましょうか、中洲につくりましょうかということは、ありえない話です。しかし、図書館はないかもしれないけれども、この地域にはもっと違う子どもたちが育つ良い環境があるわけです。そういう環境をぜひとも生かすという所が、我々の一つの大きな課題というか、テーマだと思います。という意味で、今いくつかもらった話の中で、例えば、竹でいかだをつくりましょうかという話もそうですし、大川の魚が見える形で水槽づくりとか、そういう形で魚に興味を持つような状況をつくりましょうか、清流を生かす形で大人も子どもも楽しめる居場所をつくりましょうか、こういう話は、まさに、申し上げたような形で子どもたちを中心に、今持っている我々の自然環境をどう生かすのかという、そのことなんだろうと思います。という意味では、そういう所を追求していきたいなと思っています。そういうものを通じて少しずつマスコミ、社会全体が関心を持っていただいて応援をしてもらおうと、皆もっと元気になれるのかなと思っています、イベントというのはやっぱり大事なことだと思っています。同時に、そのことをマスコミに注目してもらおうことも大事であると思っています。とは言うものの、小さなものですからそんなに関心も持ってもらえませんが、ゆくゆくはその努力をしたいなと思います。

安藤 どもありがとうございます。宮本市長お願いします。

市長 今日、先ほど三日月衆議院議員さん、また、岩佐県議さんにご挨拶をいただきました。市議会議長の中野さんも来られていますし、下村議員さんも来られています。更には、教育長、市の職員もたくさん来ています。国・県・市いろいろな課題が出てきたらそれぞれが努力できる、そういう風な応援団が皆さんにはたくさんいるということの表れかなと思っています。大いにこの大川を生かして、この美崎地域の活性化、愛着と誇りを持てるふるさをつくっていく、また、北部市街地の活性化ということと一緒に考えていきたいなと思っています。

ちょっと補足としまして、先ほどシダックスさんが自然とは結びつかないという話がありましたが、地球市民の森は県が整備しているのですが、この公園は、人があまり行かない公園になっているのです。近所の人もあまり寄り付かない、という中で県は、指定管理



に出す、要するに、木はこのルールで管理してください、自然環境の取組はこういうふうにして下さいということを決めた上で、民間の力を使ってもっと人が来てもらえる、一定の賑わいがある公園にするという趣旨から、県が公募をされました。その結果、シダックスさんに決まりました。美崎公園は市の公園です。市も同じような趣旨で、今、美崎公園は環境学習の拠点ですけれども、それを維持しながらも日常的に、週末になったら人がたくさん来るように、せっかく公園があるのなら生かしたいとの思いから、そういう視点で指定管理に出しました。結果、シダックスさんに決定しました。たまたま、同じ指定管理者に決まりました。一番上流にはおうみんちがあり、おうみんちは年間 40 万人の人が来て、京都・大阪からもお客さんが来ています。私の思いとしては、おうみんちに来た方が、地球市民の森、大川、美崎公園といった所を自転車でちょっと行き来してもらえ、それによって北部の豊かな自然、琵琶湖の景色、比良山の景色を楽しむ。こんな環境をつくっていただけらなと思っているところです。その中で、先ほど、みらい政策課長が話をしましたが、ピエリさんが、ようやくリニューアルオープンするというプレスリリースを出されました。ホームページに書かれていることを正確に言いますと、「平成 26 年の後半から平成 27 年の春にかけてリニューアルオープンします」ちょっと幅がありますが。先ほど見ていましたら、若者とかファミリー層をターゲットにして、既存の商業施設と差別化を図る中で、集客を得るような施設としてリニューアルする。まさしく、この大川周辺に様々な動きがあるわけです。そういう意味で、今日は立命館守山の生徒さんの発表の中で、水質改善だけでなく観光という点にも触れられましたが、私としては教育的な観点、愛着と誇りを持てる地域をつくっていく、さらには北部の活性化、観光を含めた活性化、こう言った大きな 3 つの視点から、大川活用プロジェクトに期待をしています。

そうした中、先ほど大川活用プロジェクトの絵の中で、自然に楽しめるゾーン、デッキで歩けるゾーンとか、いろいろありましたけれども、今ちょうど、平成 26 年度予算の検討をしているところです。その中で、担当課から、デッキの設計を始めたい。設計がないと工事が始まりませんので、工事の前の設計をやりたいという要望が上がってしまって、今、庁内でいろいろと議論をしているところです。美崎の皆さんが熱く取り組まれていますので、ぜひそういった取組がスムーズにいくように、私としても努力をしたいなという風に思っております。皆さんがいろんなイベントを通じてやっていただく中で、先ほど言いました、国も県も市も、地域の皆さんも、子どもたちも、立命館守山の生徒さん、京都大学の先生方、いろんな人が関わる中で、なんとしてもこの大川活用プロジェクトを成功させたいという機運が高まってきています。今申し上げた、大きな様々な取組が今後行われる中で、大川の水質を改善し、そして大川に多くの方が来ていただける、すばらしいふるさとになるよう取り組んでいきたいと思えます。

安藤 どうもありがとうございました。

奥村 幼稚園の方としては、特にたくさんお話をさせてもらったのですが、この再生ゾーンというものが、子どもたちにとって本当に身近なものになればいいなと思っています。もう一方で、保護者の皆さんの立場からすると、子どもを本当に安心して遊ばせられる場所になるといいなと思っていらっしゃるだろうなと思います。意外と身近なところに解き放てて、安心できる場がなかなかないという声もお聞きをしています。ですから、その場所に

行けばいろんな人に出会い、いろんな知恵をもらって、お母さん達もほっとできる、そんな場になるといいなという、理想ばかりお話をして申し訳ないのですが、そんな思いでいます。

八木 立命館守山高校は、スーパーサイエンスハイスクールに指定されていますが、本当に頭でっかちな人を育てているのでは駄目だと思っています。第1回のフォーラムのときにも話をさせていただいたのですが、ここに生徒達が参加することで、本当に生徒達が成長してきているなと思います。本当に、今回も生徒達が発表の中でも話をしてくれましたが、何か地域に貢献したいというようなことで、今までやってきた研究も課題の克服が困難であることが明確になったので、いったん打ち切って、地域の人達と一緒に水質改善をやっていくことを優先したいという、そういう風な思いになってきてくれています。また、こういった場があるということが、すごく素敵なことであると思います。今年の夏に全国から6校に参加していただいて、水環境に関する地域貢献の交流をしました。研究の交流もしましたが、それだけではなくて、自治会館で当日参加された自治会の皆さんからいろいろな発言をいただいて、地域でこういった取組をしていくことの大切さというのを感じ取っていただけたと思います。参加してくださった先生方や生徒達もずいぶん楽しんで帰っていただけましたし、来年度も同じような形で取り組むことができたらなという風に思っています。地域で学ぶことによって伸びていくという場だということは、ぜひ補足として言っておきたいです。

安藤 どうもありがとうございました。私、今日ここに来る前に、趣味でフルマラソンをやっていて、実は20キロを走っています。それでちょっと頭が大川みたいになっていて、酸欠状態です。やっと酸素が入ってきたっていう感じなのです。実は、今皆さんのお話を聞いていて、それから意見書を読み上げていて、第1回、第2回と第3回というのは、実は、大分内容が変わってきているのです。皆さんのお手元にある大川フォーラムの資料の本年度の計画の中で、私が、「里に生きる」という文章を書かせていただいたので、これを読んでいただけるとわかると思います。今の段階で言うと、水草除去などして、これからヘドロを新しく川底に堆積させないような取組は非常に成果が出ていると思います。しかし、水草除去の他の、例えば導水による水質改善などは、美崎自治会での月例の寄り合いで話が出ますが、様々な問題があって、なかなか自治会主導、住民の方たちだけでは解決することが出来ないということがあります。今日、立命館守山の生徒さん達は、非常に明確な形で、大川の水質改善は、大川の周り、美崎という地域の中で、地域がどういう風にこれから発展していかなければならないのかという視点の中で、大川の水質改善を行っていくという視点が重要であると、発表されました。そういう視点から見て、昨年度に寄り合いの中で夏休みの自由研究という話が出てきて、地域の再生の中で大川の水質改善、環境を保全していこうという取組が出てきたのです。

今日の発表の中で、奥村先生のお話を感動して聞いていたのです。奥村先生の発表は、今後の我々の大川活用プロジェクトの精神的なよりどころになるような気がしました。奥村先生の発表の中で非常に感銘を受けた言葉の中で、「子どもの成長とともに大川も変わっていく、大川も変わっていくということを子どもたちが記憶の中にとどめていく」この発想が素晴らしいと思います。3年が経過し、地域も変わりつつ大川も変わりつつある。



大川が変わっていくということが子どもたちの記憶の中であって、大川は子どもたちの成長とともに変わっていく。これがおそらく、今後のこの地域の取組の一つのシンボルになっていくような気がして、非常に今日のフォーラムは先生にお願いしてよかったなど感謝しています。伊藤自治会長さんや、自治会の皆さんの慧眼「ぜひ奥村先生に話をしてもらいましょう」ということで、今日話をさせていただき本当に良かったなど私は感じています。

とかく、環境保全のプロジェクトは、水質改善ということになるとそれだけに突出するようなことが多いです。そうすると、活動はどちらかというとな数年間は続くのですが、具体的に水質が改善されれば、確かにそういう目的でやったのですから、所期の目的が達成されて終わりということになるのですが、実はそうではないのです。本来はそれを契機として皆さんが何を考えているかということのほうが非常に大切だと思います。

私の方からも一つ付け加えさせていただきたいのは、皆さんのお手元にある「みさき百科」も今年度の寄り合いの話の中で決まりました。話の中で申し上げたように、環境保全ということだけで活動を進めてきましたが、立命館守山高校の生徒さんと同じように、やっぱり寄り合いに参加している人達の心の中には、里川だけでなく、里湖、里地も利用して暮らしてきたという考えが暗黙のうちにあると思います。その中で、自分達の地元を知っていく、ただ単に水質を改善して大川をきれいにしていくというだけではなく、地域の再生をどのようにしていったらいいのか、という話し合いの中からみさき百科はできました。「地域再生の『知』のエネルギー—『みさき百科』の刊行に寄せて—」を「みさき百科」に寄稿しました。そこに書いてあるのは、地域、社会というのはどんどん意識、無意識のうちに変わっていきますので、そういう時に、皆さんお気づきになっていると思うのですが、変えていくときの力になるのは、お金じゃないのです。知恵とか知識とか、皆が共有できるものが、発展や変化の大きな原動力になる。大川活用プロジェクトの当初からのすばらしい特徴は、先程の小学生の子どもさんや高校生の方とか、環境分析、環境評価というようなことをやっておられて、当初から「知」が活動の中核にあるのです。昨年場合は、参加型のワークショップで皆さんに昔を振り返っていただいてこの大川をどういう風にしたいのか。その時に前提となったのは、寄り合いに参加されていた皆さんが持っていた昔の記憶です。それを、寄合で書き表してもらいました。書いて表現することによって、その思い出が具体的な一つの「知識」になるのです。今日の発表で振り返っていただきたいのですが、奥村先生がおっしゃられたように美崎の寄合に参加されていた人達の昔の思い出が「知識」として共有されることによって、先生も触発されて今日のすばらしい発表につながりました。私たちは寄合で「みさき百科」刊行を決定して、今後美崎、大川周辺にあるいろんな知恵、経験、新しく環境データとかそういうものを、毎年冊子としてまとめていきます。それを自分達の知識として集積していこう。そういう思いでみさき百科は出来ています。ですから今年度は非常に大きな方向転換が起きたわけです。私がたくさん話しすぎました。「みさき百科」について自治会長さんにぜひ付け加えていただきたいと思います。

伊藤 みさき百科というと少しおこがましくて、みさき三科くらいにして、内容的にはまだ不十分なのですが、思いはいくつかあります。最大の思いは、自分達の住んでいる所がどういう所なのかということの共通認識を持つことが、地域としてまとまっていく最初のスタ

ートかなという、そんな風な思いがありました。結果として、ちょっと分厚くなりましたが、ふるさと意識みたいなものが特に子どもたちの中に育ってくれたらいいなという思いを多分にこめて手がけてみました。つくるにあたっては自治会の皆さんが随分と協力してくれました。市の皆さん、美崎公園の中村先生、諸々随分応援してもらってやってきたのですが。ゆくゆくは、せめて五十科くらいまで近づけたいなと思い、少しずつ充実していければと思っています。ということで、時間があれば、一度ぜひ目をお通しください。なかなか面白いです。ぜひこんなこともこれから取材してよという話があれば聞かせて下さい。そんなことも踏まえてつくりたいなと思います。

それからさっきの安藤先生の話の中でいくつか気になった話があったので、付け加えさせていただきます。大川が子どもたちの成長と共に変わるとするのは非常にうれしい言葉だなと思いました。それから大川の取組は『知』がベースになっているというのも良い話だなと思いました。一つ例を挙げますと、実は大川で植生浄化として空芯菜を植えて水質浄化をやろうと試みました。試みたのですが、どれだけ効果があるかということが全く解らずに実施をしました。間違いなく、定性的には栄養塩を吸収して育つだろうと。その葉っぱを取ったら、その栄養塩は外側に行くのできれいになるだろうと。それは解っていたのですが、どれだけ効果が上がるのか、全く分かりませんでした。そこを、立命館守山の生徒の皆さんがヒヤシンスを使いながら測定してくれました。これはやっぱり元気になります。嬉しくなります。そういう面で非常に良い経験ができたのかなという風に思っております。

それからもう一点だけ。先ほどからしきりに私は、子どもが育つ環境ということを行っています。これも多分思い込みでやっています。やっぱり地域ですから、子どもを大切にしたいというそれだけの思いです。で、何をして良いかわからない。せいぜいイベントくらいだと思うのです。そういう中で、さっき奥村先生から、いろいろな期待を込めて注文を付けていただき、これが本当に嬉しいのです。また、勇気にもなります。こんなことで、また続けていけるのかなという風に思っています。そういう連携をうまく出来ているのが大川活用プロジェクトのありがたいところかなと思っています。

安藤 どうもありがとうございます。どうでしょうか。何か付け加えることがありますか。

伊藤 もう一点いいですか。もう一点、昨年9月に気がついたことを言います。実は琵琶湖の水質改善を図るのに、大川は栄養塩が外から流れ込んでいるので、水の流れだけをつくったらきれいになると思ったのです。そういうことを発言もしましたし、市長さんにもお願いをしました。昨年9月の台風18号で随分と水が入ってきたのですが、そこで見ていましたら相当流れ込んでいました。ところが、ぜんぜん駄目でした。なぜかという、出口がふさがっていたのです。水資源機構の水門が非常に狭くしている。その外側の琵琶湖敷に砂が堆積していて、出て行かなかったのです。ですから、この大川の施設にはそういう新しい課題も出てきました。なかなか課題は大きいし、先は長いなあとと思いますが、しかし、それが解っただけでもありがたい話で、まあ、一步一步とありますが、ちょっとそんなことに気がつきましたのでご紹介しておきます。

市長 今日はみさき百科を見させていただきまして、この12ページの所に昔の大川橋の写真があります。これは、台風とかが来ると上の板を地域の方がはずされていたのです。本当



に川と共生しながら、川の怖さを感じながら暮らされていたということがよくわかる写真で、私は驚かされたところです。実は、今年で野洲川大改修の暫定通水から 35 年を迎えます。35 年前はこういう姿だったのですが、35 年前に通水路ができて水を流したことによって、こういう景色が失われてしまったということです。そういう意味で 35 年たった今、こうやって皆さんと一緒に、元の自然環境をしっかりと取り戻していこうというのは、本当に良いタイミングであるという風に、見させていただきながら思っていました。また、先ほど伺いましたところ、昭和 39 年に自衛隊の方が大雨の際に亡くなられて今年で 50 年ということですので、野洲川の改修に対する感謝の気持ちも私は忘れてはならないと思っていますし、地域の方を救出する為に亡くなられた自衛隊の方の御霊も一緒に弔いができればという風に思います。

もう一つ、みさき百科で 38 ページを見ていただくと、先ほど伊藤自治会長のおっしゃられた河口部の水資源機構の樋門、これは道路の下にあるわけですが、その先の砂のところがいかに変化したかがよくわかると思っていました。38 ページの左下を見ますと、昔は野洲川の支流ということで河口が広がったのですが、現在はふさがっています。道路より北は砂が本当にたまっています。この前、1 m くらいの亀が泳いでいて、すごい環境です。本日は、水資源機構さん、岩佐県議さんが来られています。県の方にも言いながら、やはり大川が琵琶湖につながらないといけないと思いますので、そこもまた努力をしたいなと思います。また、水の確保は冒頭申し上げたように北川用水路から頂戴するか、もしくは法竜川からの水のどちらかかかかないと思っています。これはまた知恵を使って考えていきたいなと思います。

安藤 どうでしょうか。皆さんから、今の話を聞いて何かご意見ありますか。もし無ければ、ここで私なりにまとめさせていただきたいと思っています。

皆さんの意見の中に、今後、発信に力を入れてほしいという要望があります。大川の活動をもう少し外の人達にもわかるようにすることが必要だと指摘されています。美崎以外の人達にわかるようすることも大切だと思いますが、美崎の人達の中にもっとこの活動を知ってもらえるように発信することも大切であるという気がしています。確かに、今日、たくさんの方にフォーラムに参加していただいたことは、非常に嬉しいことだと思います。ただし、フォーラムの冊子や「みさき百科」を、美崎自治会の会員メンバーにいかに関心を持っていくのか、おそらく来年度の大きな課題になるのでは、という気がします。もっと美崎の外にニュースとかで取り上げられて、というのももちろん非常に重要なことであると思います。それと同時に、出来れば自治会の人達にうまく伝えられる取組、もしくは活動の展示会などが必要だと私は思っています。今は年 2 回やっているのですが、もう少し違う形で発信することができると良いと思っています。

2 点目は、今日のフォーラムの中でもう一つ明らかになってきたのは、水質をきれいにするという事はもちろんですけど、昨年度つくった整備計画に意図しながら大川をどういう形で整備していくのか、今市長がおっしゃったのですが、お金がついていますよ、と、大川にデッキも出来ますよという話がありました。いいですか。

市長 設計にまず。その後順次。

安藤 設計。非常に楽しい話だなと思って聞いていました。私は先ほど趣味で走っているとい

う話をしました。ミャンマーとかブータンとかバングラデシュとか、海外へ行った時も、朝に走っています。びっくりしたのは、皆さん本当かと思われるかもしれませんが、実はミャンマーとかバングラデシュとかは日本よりも走るところがもっと整備されています。日本は走るところは歩道しかありません。ところが、ミャンマーとかバングラデシュに行くと、ちゃんと散歩道とかジョギングロードが整備されています。大体そこに来る人は成人病の人が多いのですが、日本よりもずっとたくさんの人が歩いたり走ったりしています。なぜ私が走る話をしたかという、私は一つ希望があって、美崎自治会の整備計画の中に示されているのですが、観光、景色を見る、遊ぶ、それにプラス、地域の健康づくり、それらが総合的に出来る、大川の地域がそういう一つの空間になっていたら非常に良いのではないかと、思っています。今日のフォーラムを聞いていて、整備計画の中で健康づくりに一つ寄与出来るような、そういう整備を計画するのも悪くないのではないのでしょうか。

そんな風に思ったのですが、どうでしょうか。発信と具体的な整備に向けて、水質改善は、私は平行してやれば良いと思っているのです。水がきれいになっていくというのは非常に良いことです。しかし、それは何回も話が出ている水の入替の件ですが、水の入替の件は、自治会だけでは出来ないようなことなのです。おそらく自治会のみで完結して出来ることは、こまめにヘドロの源となる水草除去のようなことはぜひやっつけていかなければならないでしょう。それ以外の水の入替のようなことは、ひとまず努力するが、固執しないということで良いのではないのでしょうか。大川の周辺を具体的にどういう風に整備していくか。先ほどの話でしたら、子どもが遊べるという話がありました。その点について来年度具体的にどのようにしようかということです。私は今日の話聞いていて、それと自分の体験から言えば、大川の活動の中で、思いつきですが、健康というのも、実は大きい地域再生の取組の柱になるでしょう。守山は確かサイクリングロードとかつくられるという話ですけど、前の寄り合いでも言ったことがあるのですが、もう少し地域レベルで、例えば一周2、3km、1kmくらい歩いたり走ったりできるような空間があると、非常に良いと考えます。地域の人が大川の景観を見ながら、歩いたり走ったりすることができる。そんなことをずっと実は考えていたのですが、どうでしょうか。その2点。発信のことで環境整備を具体的にどういうイメージで今後進めていけば良いのでしょうか。もう少し中身を詰めていくという意味でどうでしょうか。

伊藤 はい。また少し発言させていただきませんが、今、安藤さんの話を聞きながら少し話をしましたが、美崎公園があります。その上流に随分と大きな藪があります。すぐ見えるところにありますが、全く死んでいるのです。美崎公園とそこをつなげて、例えば藪の中をもう少し整地してわんぱくランドみたいなものをつくれれば面白いねと。それが地球市民の森に繋がって行って、面白い空間になるかもしれないねと、今、そんな話をしていました。

そういう場面づくりと、もう一つ、前のフォーラムで話したので、聞いた方がいるかもしれませんが、みさき百科の28ページをご覧ください。実は、私が一番気に入っている話です。亡くなられた中村一雄先生の記事ですが、大川の下流のほう、アーバンリゾートのマンションの目の前のあたりに、ムクロジという木があります。漢字で「無患子」と書きます。このムクロジの木の種は、羽根突きの羽根の玉なのです。中国では、これにひもをつけてとんぼのように飛ばしたそうです。とんぼは蚊を食べる、蚊を食べると子どもが蚊に



さされて病気にかからない、ということから子どもが患わない、「無患子」という名前がついたそうです。これは、ものすごく良い話だと思うのです。親の思いがそこに入っていれば、漢字の意味というのはどれが良いというのがあれば、中国と日本のつながりの深さというようなものを感じて。いっぱいあります。これは非常に良い材料であって、こういう風なものをもっと少し丁寧に拾い集めていって、それをきっちり地域で解るような形で解説をすれば、地域みんなの目をもっと引くのかなと思います。今日、永井さんに発表してもらった中で、大川自然博物館という言葉を使っておられましたが、大川自然博物館というのはまだ形になってないですが、そういう風なもの、例えばこのムクロジの木の話だとか、大川の話だとかという、いっぱいそういうものを体系化して、総合化して、ある程度の知的な裏づけをきっちりと整理して、地域に、社会に向かって発信することになればこれは面白いなど。それを表現する言葉が思いつかなかったもので、とりあえず大川自然博物館という名前にしています。そういう地域の自然をいろんな形で生かす、そういう総合的な取組を自然博物館という、そういう名前を使っているのですが、これがもう少しちゃんとすれば良いなあとと思っています。後2、3年は自治会がやりたいなと思っています。その中でいろんなものを見つけて、ある程度材料ができれば今後は専門家にあるいは行政にいろいろ支援してもらわないと更なる発展はないのかなと思っています。とりあえずそんな中で「知」を一つの当面の目標にしてやっていきたいなと思っています。

安藤 どうですか皆さん、何か付け加えることがありますか。

八木 発信ということで言うと、今回の夏休みの大川自由研究室をもっと大事にしていきたいと思っています。子どもたちの先ほどの発表にもありましたけれども、「あ、この大川にこんないろんな生き物がいるんだ」とかヨシノボリという魚がいたということにも、気がついたりして。多分ですけども、子どもたちが畑に行って野菜を収穫したとか、余ったスイカを元気な声で、じゃんけんをして取り合いをすとか、そういう楽しい取組、明るい声が響くような地域再発見といいますか、そういう風な取組だと思います。子どもたちもそうですし、やっている大人たちも、準備がすごく大変だったと思いますが、そういう風な子どもたちの声を聴いたりすると元気になれるというか、そういったことをすごく感じました。生徒達もそのときの様子を、写真やビデオに撮ったりするように言っていたのですが、本当に良い笑顔の子どもたちの写真をたくさん撮ってくれました。それを動画に編集して良い感じの作品になりました。この前の夏休みの交流会でも流させてもらったのですが、そういった取組が地域を活性させるのではないかと思います。

奥村 私も発信ということでは、今、安藤先生が言ってくださったことで、これは、私のことなのですが、この大川のフォーラムを知るまでは、なんやろうという感じで来て、昨年このフォーラムに参加をさせてもらって、発表を聞いてすごいことをしてくれているのだとか、高校生のお兄さんたちがあんなことをして川を美しくしようとして研究してくれているのだと思ってびっくりしました。その後、寄り合いにも参加させてもらったのですが、その「参加する」、「ちょっと知る」ということが、自分なりの意見を持ったり、こうやったらいいのという発想が出てくることにつながるなということ、身を持ってすごく感じています。今日も幼稚園の職員の何人かがここに来ていますが、私とかが寄り合いに行っていて、ちょっとこんな話があったわと口で伝えるのではなくて、ここにきてこれが大

川フォーラムですかと改めて知った職員がいました。それが始まりになるのかなと思います。やっぱり知るということはすごく大切で、この美崎の皆さんがまずは、「美崎で、今こんなことをやっているんだ」ということを皆が知るということが、すごく大切であるということを変更して思いました。

市長 まずは、発信ということについてですが、先ほどから出ています、まずは地域の皆さんでしっかり共通認識を持つということも大切ですし、速野学区もそうですし、守山市全域で素晴らしいことをやっているなということにならないといけないなと思います。今は自由研究やイベントが中心ですが、できるだけ参加してもらうのが一番良いのですが、皆が皆参加はできませんので、今後、先ほどの遊歩道とか、自然体験が出来る場所が出来てくるとか、おそらく形で見えるようになれば、もっと「あ、なんか変わったな」ということでもっと関心が向いてくると思っていますので、今はもう少し我慢するというか、次に飛躍するために準備をする期間なのかなという風に思っています。先ほどから申し上げていますように、ピエリさんが元気になればたくさんお客さんが来ますので、ぜひそのピエリさんに来たお客さんが大川に寄ろうとか、大川に浮かんでいる船に乗ろうとか、大川の近くで綺麗な水環境があるからそこで子どもを遊ばせようとか、そういうピエリさんに来たお客さんを引っ張るようなこともぜひ考えられたらなという風に思います。例えばピエリさんに、近所の目の前の大川はこういう所ですよという案内板を出してもらって出来ると思いますので、せっかく目の前にあるわけですから、ピエリさんのお客さんを取り込むようなこともそこで発信する、これもあると思います。後、先ほど言いましたおうみんちも年間 40 万人来ていますし、あそこは本当に市民も、大阪や京都の方も来ているので、ああいう所にもそういう情報発信、イベントがありますとかを掲出されてもいいのかなという風に思っています。先ほどシダックスさんの話をしましたがけれども、シダックスさんが地球市民の森と美崎公園の指定管理を、県と市それぞれから受けることになります。シダックスさんからの提案の中にあるのは、自転車を貸し出して、辺り一体を走れるような環境整備、サイクルステーションみたいなものをつくり出すというのが提案に入っていますので、それがうまくいけば、おうみんちを核にして、そのあたりを散策する中で大川にたどり着く、自転車を借りた方がここにたどり着く、こういった様々な展開が期待できると思っていますので、先ほど言いました大川活用プロジェクトは地域の皆さん主体となって、大学、高校、さらに行政がしっかり連携する中で取り組んでいく。周りに来るお客さんをいかに今後取り込んでいくか、これは一緒にぜひ頑張っていきたいなと思います。

もう一つは、今後の具体的な整備の話になりますが、先ほど申し上げた来年度、出来れば大川のデッキ（絵でいうと 22 ページの上の大川河口部ゾーン、下の 4 つの詳細図の左上）の設計をまずやりたいなと思っています。基本設計と実施設計をやるので、うまくいけば、平成 27 年度に具体の整備ができるということになります。

安藤 その時に何人かやっぱりちょっと頑丈で、ある程度何人かが走ったり歩いたり出来るような頑丈なデッキをお願いします。

市長 これはやっぱり地域の皆さんと意見を交わしながら、どんな風にするかとか、実際にどこをどうやって歩くのかまではまだ考えられていませんから、具体的に皆さんと話をしながら、どこにどうやってつくるのか、まずここに取り組んでいきたいなという風に思ってい



ます。ランニングする場所とかいろいろおっしゃいますし、まずは、地球市民の森が一つこの辺りにあるので。今、人があまり行かない公園になっているので、それをまずは人が行く公園にしてほしいなど。そこは、シダックスさんというのは、カラオケだけじゃないのです。いろいろなところの指定管理を受けていますし、給食をやっていたり道の駅を運営していたり、いろいろノウハウを持っていますので、そういうお客さんが来る仕掛けはいろいろやってくれるだろうなという風に期待をしています。あと、ラフォーレさんが裏に土地を買われて、かれこれもう5年になろうというところですが、我々としてはラフォーレさんにも通って、「早くプロジェクトをお願いします」とお願いをしています。ラフォーレさんに泊まれたお客さんがこの大川とか新川をぐるぐると朝に散策をする、あのホテルに泊まりたいなと思ってもらえるような環境を将来的にはつくっていったらなど。さっきの新川の上流のところの、琵琶湖を使ったわんぱくランドとか、子どもさんを連れてきても琵琶湖の景色が見えるし、子どもも自然と戯れて元気に遊べるとか、本当に、子どもさんがたくましく楽しめるような環境を、時間をかけながら皆さんと一緒につくっていききたいなという風に思います。

安藤 どうでしょうか皆さん、今までの話の中で、ご意見がありましたらぜひお伺いしたいのですけれども、もし無ければ話を進めていきたいとします。実は私に与えられた宿題がありました。資料の31ページを見ていただけませんか。寄合の時に、皆さんから大川の取組の到達点と今後のことについて私の意見を聞かせて欲しいということでした。それが31ページに書いてあります。これをざっと見ていただければ解るように、基本的には大川で取り組まれていることは、世界的な農村開発や地域再生という点から見ても、世界の最先端なのです。これはどういうことかという、先ほど私が指摘をしたように、箱物とかハードではないのです。地域再生とか農村開発は、今はどういうことになっているかと言えば、やっぱり「知識」、先ほど奥村先生がおっしゃったように知るということが、今の農村開発、地域再生の大きな世界的な流れの中で、それがやっぱり一番大切だということが、専門家、行政、NGOなどの人達の中でも常識になりつつあります。一年目は環境をきれいにしようという皆さんの自主的な活動から始まりました。こうした活動を農村開発研究分野の専門用語では主体的住民参加といいます。住民の人達が自ら進んでやれば、自然の流れとして問題を知りたい、知るということに行き着きます。知ることによって、それをばねにして活動への参加が積極的になります。水俣の問題とか、いろんな公害問題でもそうです。「知る」ということを原理にしながら、そこで何が生まれてくるかという、当事者という考え方です。ここは私たちの地域なのだ、だから自分達の力で変えていこう。そのためには問題について、地域について「知る」ということが非常に大事になってきます。

また現在日本の各地から伝統的な祭りがどんどんなくなっています。美崎にはまだまだ残っているとはいえ、私は、大川活用プロジェクトの取組が新しい祭りの原型になって欲しいと願っています。伝統的な祭りは様々な人が参加しています。大川活用プロジェクトの環境改善活動や調査、夏休みの自由研究などが祭りになれば、多くの人々が参加していくことでしょう。大川活用プロジェクトの取組を、世界に向けて発信すれば、必ず、世界の人たちは驚くことでしょう。私は美崎での取組はそれくらい値打ちがあるものだ

思っています。皆さん、是非、自信を持って取り組んでいきましょう。大川活用プロジェクトの活動は美崎型地域再生モデルとして発信され、ゆくゆくは行政の方々に守山モデルとしてアピールしていただけるといいと思います。

時間になりましたのでこれで閉めたいと思いますが、どうでしょうか。皆さん、最後にぜひこれだけはという方がいらっしゃいましたら発言をお願いいたします。

会場A それでは、一言だけ。Aといいます。素晴らしい活動をされていることに感服しました。私たちも頑張ってやらないといけない、どのようにしてやっていこうかな、そんな思いです。私が知っている範囲では、今の大川の話も市政 30 周年記念のときに、まちおこしということで、どういう風にやっていこうかなということで手を挙げられ、3自治会ぐらいが大川と一緒に、屋形船を浮かべようとか、ホテルもやろうかということで展開されました。それから今の伊藤自治会長になって、発展的に素晴らしい取組をされています。先ほど、アンケートの中にも書かせてもらいましたが、プロジェクトと言う性質は、重要な課題を専門家に入ってもらって解決するのがプロジェクトですので、そもそもの重要課題解決の目途がつけばどのようにされていくのかな、立命館守山の方が提案されていたブランドであるとか、これについてもどういう風に受け止めて、どういう風に発展させていくのかなということも、受け入れる気持ちが大切かな。そんな感じから言えば、将来はどうしたら良いのかな。私が思っているのは、間違っているかもしれませんが、プロジェクトからまちづくり活動に移行していったらどうかと。大きな意味で、学区全体を巻き込んでいったほうが素晴らしい取組になっていくのかなと。徐々にやっていくのだと思いますけど。そのようなことを思いながら聞かせていただきました。本当に素晴らしいと思いました。

安藤 今のことについて、何か言っておきたいことがありますか？

伊藤 じゃあ一点だけ。私どもの認識では今やっていること自体がまちづくりだと思っています。こういうテーマの中で、地域が一つの課題に目を向けて一緒に汗をかく場面がいっぱいあって、将来の議論をするようなこういう場があって。これがまちづくりの一つのステップかなと思って、今やっております。

安藤 それでは少し時間が過ぎましたが、今日はありがとうございました。

司会 安藤先生ありがとうございました。今一度大きな拍手をお願いいたします。

以上を持ちまして第3回大川フォーラムを終了させていただきます。皆様におかれましてもお時間をいただき本当にありがとうございました。今後とも、大川活用プロジェクトにさまざまご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 第3回大川フォーラム 開催要項

### 1. 開催趣旨

25年8月に開催した「夏休み大川自由研究室」では子ども達が大川とその周辺の自然と社会を学び、体験し、交流しましたが、同時に大川を中心とする地域の価値の確認と今後あり方を考えるうえで貴重な蓄積になりました。

フォーラムでは「自由研究室」の取り組み報告と関係する組織からの期待の声を踏まえ、今後の大川等の活用を探ることにします。また、大川環境改善の具体策についても議論を深めます。

2. 日時 平成26年2月1日(土) 13:30～16:00

3. 場所 守山市美崎自治会館

4. 主催 大川活用プロジェクト

### 5. テーマ

「夏休み大川自由研究室」から考える今後の大川  
—大川等整備の基本的考え方の具体化に向けて—

### 6. 進行

13:30 開会

あいさつ

13:40 報告

①「夏休み大川自由研究室」の報告

大川自然博物館研究会代表

子ども代表

②大川への期待(高校生の視点から)

立命館守山高校

③大川への期待(幼児教育の視点から)

速野幼稚園

④大川の取り組み報告と今後の課題

美崎自治会

⑤守山市のまちづくり

守山市

14:50 休憩

15:00 ディスカッション

①論点整理

アジアの農村開発と大川の取り組み

—大川の取り組みの到達点と今後の方向— 安藤和雄

②ディスカッション

コーディネーター 安藤 京大東南アジア研究所

パネラー 宮本 守山市長

八木 立命館高校

奥村 速野幼稚園

伊藤 美崎自治会

16:00 閉会

### 第3回大川フォーラム チラシ

**参加費  
無料**

## 第3回 大川フォーラム

テーマ

「夏休み大川自由研究室」から考えるこれからの大川  
～大川等整備の基本的考え方の具体化に向けて～

美崎自治会、京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所、立命館守山中学校・高等学校、市で構成する大川活用プロジェクトでは、市内北部を流れる準用河川大川を舞台とし、河川的环境保全とまちづくり活動に取り組んでいます。フォーラムでは、昨年8月に開催した「夏休み大川自由研究室」の成果などを踏まえこれからの大川等の活用を探ります。また、参加者の皆さんと大川的环境改善の具体策についても意見交換を行います。ぜひご参加下さい。

※事前の参加申込は不要

とき

平成**26**年**2**月**1**日(土)

ところ

**美崎自治会館**(守山市今浜町 2761-35)

受付開始 (13:00～)

開会 (13:30)

第1部 活動報告 (13:40～)

- ① 「夏休み大川自由研究室」の報告 大川自然博物館研究会代表 子ども代表
- ② 大川への期待(高校教育の視点から) 立命館守山中学校・高等学校 Sci-Tech クラブ生物班
- ③ 大川への期待(幼児教育の視点から) 速野幼稚園
- ④ 大川の取り組み報告と今後の課題 美崎自治会
- ⑤ 守山市のまちづくり 守山市

第2部 パネルディスカッション (15:00～)

“テーマ：大川の取り組みの到達点と今後の方向”

- ① 論点整理 安藤和雄(京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 准教授)
- ② ディスカッション  
コーディネーター：安藤和雄(京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 准教授)  
パネラー：八木良明(立命館守山中学校・高等学校 教諭) 奥村豊子(速野幼稚園園長)  
伊藤潔(美崎自治会長) 宮本和宏(守山市長)

同時開催



当日、美崎の歴史や自然を紹介した冊子  
「みさき百科」を配布します。(無料)

「みさき百科」  
～大川とその周辺の自然と社会～



主催：大川活用プロジェクト

問い合わせ 守山市みらい政策課 電話：582-1162



## 大川等整備の基本的考え方

### 1. 経緯・意義

準用河川大川は、野洲川新川の通水以降流水がなくなったことから水質の悪化や水草の繁茂が進み、その環境改善は地域住民の永い間の願いでした。

また、大川を中心とする湖岸一帯は県内有数の景勝地であり、ハマヒルガオの自生地や美崎公園などの地域資源にも恵まれ、その活用と魅力化は守山市にとっての大きな課題となっています。

このため、京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所、立命館守山中学校・高等学校、守山市、美崎自治会の4者は「大川活用プロジェクト」を組織し、大川の望ましい環境整備のあり方や大川を中心とする地域の活性化策を議論してきました。

「大川等整備の基本的考え方」はこうした経緯のもとに取りまとめたものであり、今後、フォーラムでの意見などを踏まえながらより具体の整備の計画とする予定です。

なお、大川活用プロジェクトの取り組みは、地域の課題への住民の主体的な参画のもと、行政や研究・教育分野が連携し、ともに知恵を出し合いながら将来のあり方を構想する新しい地域づくりの手法として意義あるものと考えます。

### 2. 整備の基本方針

- ①大川の水質と生態系の改善・回復を図る。
- ②大川を上・中・下流の三つのゾーンに区分し、特性に応じた環境整備を進める。
- ③大川とその周辺地域の多様な資源（川・自然・産業・公園など）を地域の魅力化や活性化に活かす。

### 3. 整備の方針

#### 1) 水質と生態系の改善・回復

整備の方針：大川の水質と生態系の改善・回復は最も重要な課題であり、次の取り組みなどを進める。

- 取組み事例：水質改善のための他水系から導水  
・繁茂する水草や外来魚の除去

#### 2) 大川の環境整備

##### ○大川再生ゾーン（旧大川橋上流部）

整備の方針：砂浜があり、水が流れ、小魚の泳ぐ川を再現し、子ども達も水に触れ、川を楽しむゾーンとしての整備する。

- 取組み事例：浚渫や覆砂で河川敷の環境を改善  
・大川の水害の記憶を新にする木造橋（旧大川橋）の再現  
・植樹や休憩所等を整備し、琵琶湖と地球市民の森を結ぶ休憩拠点としても活用

##### ○回廊ゾーン（旧大川橋から概ねさざなみ街道の接点まで）

整備の方針：再生大川ゾーンと河口部ゾーンを結ぶ回廊と位置づけ、沿川の修景、沿道の環境整備等を進める。

取組み事例：植樹等での沿川の整備・修景

- ・狭隘部には水中遊歩道を設けるなどプロムナードとして整備

#### ○大川河口部ゾーン（大川河口部）

整備の方針：湖と川の水景を楽しむ憩いと交流の拠点としての整備する。

取組み事例：水上眺望テラスの整備

- ・なぎさ公園・ラフォーレ・ピエリ等一帯の集客施設を結ぶ接点として周遊遊歩道（河川内の遊歩道を含む）を整備
- ・通水能力を高めるため河口部は琵琶湖を含め浚渫・整地
- ・水機構の水位調節施設は撤去を提案

#### 3) オープンミュージアムの整備

整備の方針：川、琵琶湖、農水産業、学習施設など恵まれた資源を活かし、環境学習や都市との交流の拠点として整備する。

取組み事例：美崎公園を拠点に新川・湖岸・大川・農業地帯を巡り、水環境や植生、農村地帯の生活文化等を体感するゾーンを設定

- ・美崎公園に学芸員やボランティアを配置し、環境学習や自然体験をサポートするオープンミュージアムを整備

#### 4) 関連事業

- ①県道今浜水保線を琵琶湖と地球市民の森を結ぶ回廊として位置づけ、サイクリングロードの整備や花や緑で沿道を修景
- ②周辺立地企業等と連携し、大川やオープンミュージアムを活用したイベントを企画
- ③大川の水域での温水性魚類の生息環境整備、ハマヒルガオ自生地や菜の花畑等を含めた観光資源化など地域資源の有効活用

#### 4. 今後の進め方

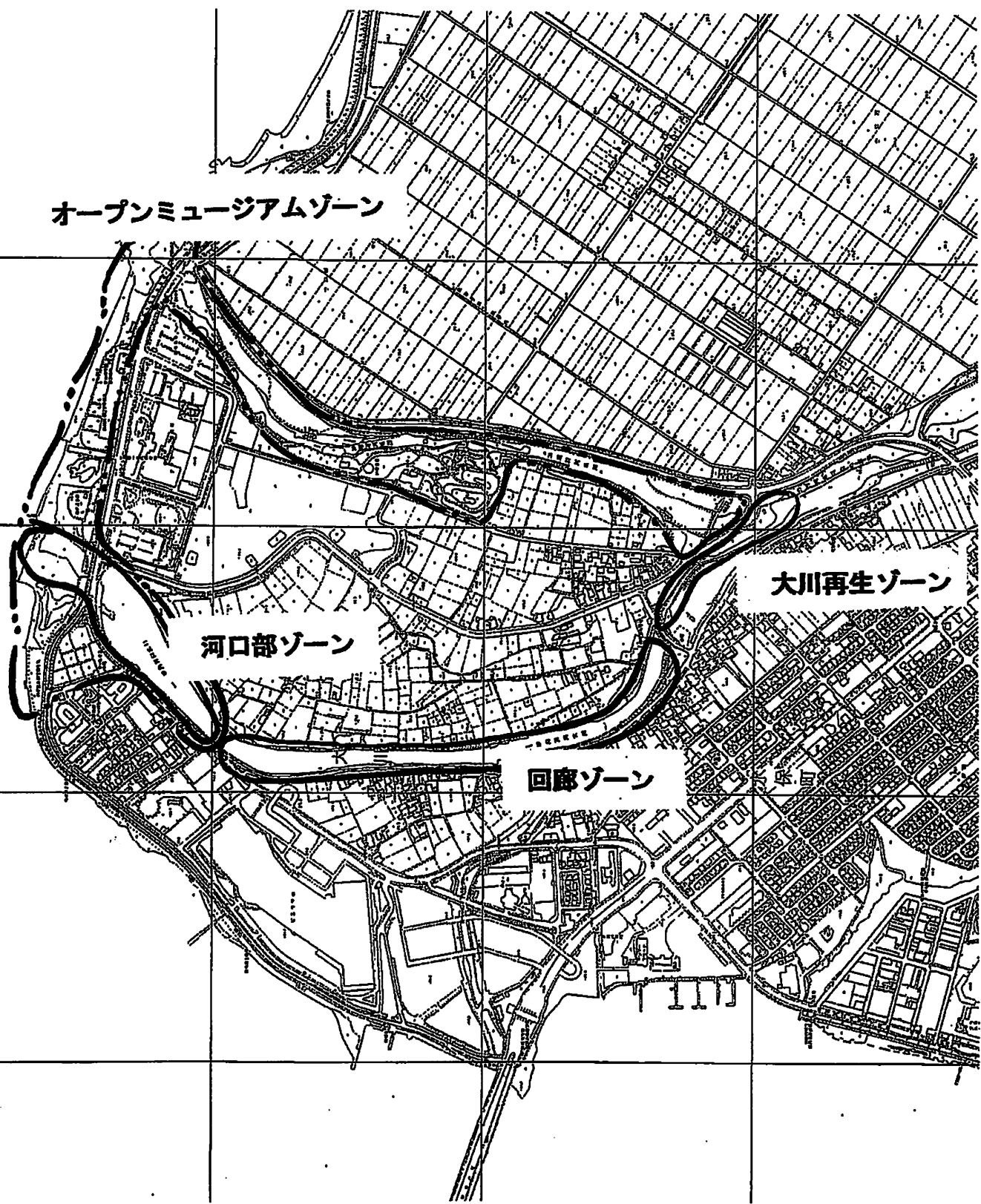
##### ○「大川等の整備計画」の策定

（計画内容）

- ・整備計画
- ・整備事業
- ・推進組織 等

##### ○取り組み体制の整備

### 大川的环境整備・構想図







大川河口部ゾーン

回廊ゾーン



サイクリングロード・散策路のようす

大川再生ゾーン



平成 25 年度版 里川里湖のまちづくり 実施計画書

平成 25 年度版

里川里湖のまちづくり 実施計画書

大 川 活 用 プ ロ ジ ェ ク ト

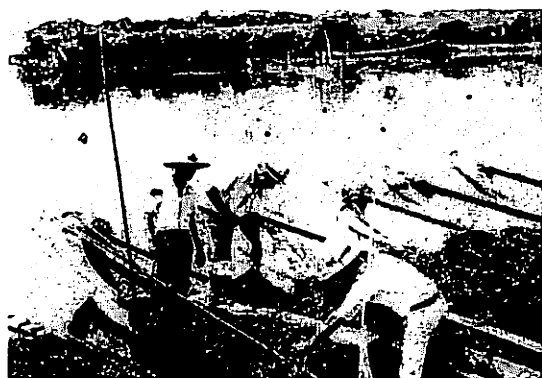
美 崎 自 治 会  
京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所  
立命館守山中学校・高等学校  
守 山 市

## 里に生きる

安藤和雄（京都大学東南アジア研究所）

里川とは身近な川のことです（鳥越皓之 2006）。農村部の自然環境保全の現場では、近年 里川、里地、里湖、里海が里山とともによく聞かれるようになりました。里にある、山であり、川、地（田や畑などの耕地）、湖、海のことです。里とは、国語辞典では「（「郷」とも書く）山中や田園地帯などで、人家が集まって小集落をなしている所」と説明されています（デジタル大辞泉）。つまり、里川、里地、里湖、里海は、人が暮らしている里にあって、これらの里の自然資源を人が利用し、その過程でつくりだしてきた「自然環境」とでも言えるでしょう。自然環境保全の必要性が喚起され、こうした名称は、保全や改善、利用されるべき自然環境を議論する場合は、対象が明確となって参加者皆さんにその活動をわかりやすくする利点があります。「里川里湖のまちづくり」は、大川を里川、大川が流れ込む琵琶湖を里湖と位置づけ、大川を里川としての水質改善を行い、地域づくりに再生利用することを主な目的として始まりました。

ただし里に暮らす人にとっては、山、川、地、湖、海は実際には個別に存在しているわけではなく、特に伝統的な暮らしの中では、これらの自然環境は資源利用によってつながっていることが多かったのです。美崎でもよく知られ



藻取り

ているように、化学肥料が一般的に使われる以前は、里湖である琵琶湖では耕地に施す自給肥料として「藻取り」が昔から盛んでした。万葉集の「玉藻刈る」とはこの藻取りのことだと言われています（守山市誌編さん委員会 2006：372-374）。写真は守山市誌からの転載です（同：373）。里では、特徴のある自然環境を里に住む人たちがうまくつなげていくことで、「里の総合利用体系」とでもいえる循環系を見事に成立させてきたのです。里という総合的な視点なくしてはともこうした考えには至らなかったでしょう。大川活用プロジェクトがユニークな点は、美崎の住民の方々が主体的にかかわっていること

ことから、しらずしらずのうちに里という広がり総合的な地域に暮らす視点から大川の活用が考えられていることにあります。

平成 24 年度の大川フォーラムで「大川等整備の基本的考え方」が示されました。特にオープンミュージアム構想に、「里の総合利用体系」という視点が反映されています。平成 25 年度には、その考え方を一歩でも具体化するための事業が計画されています。「地域住民や子ども達の大川への関心醸成のための各種取組」の「夏休み大川自由研究室」（テーマ：『食から知る大川の暮らしと自然』）は中心的な事業として位置づけられています。伊藤潔美崎自治会長が指摘されているように、大川活用プロジェクトは大川の水質改善事業から出発しましたが、美崎という里をいかに発展させていくかという方向性が明確になっています。それが事業として具体的に開始されるのが、平成 25 年度計画の特徴です。活動が質的に広がりをもった年度ということにもなります。この展開は大川活用プロジェクトの根幹には「里に生きる」という美崎の皆さんの自覚が事業として具体化されつつある証でもあります。私はこの自覚がさらに大川プロジェクトを充実させていくと確信しています。

守山市誌編さん委員会 2006『守山市誌 生活・民俗編』 守山市：677 ページ。

鳥越皓之 2006 「序 いまなぜ里川なのか」『里川の可能性——利水・治水・守水を共有する——』（鳥越皓之 代表編集）新曜社：2-5 ページ。



# 1 「里川<sup>うみ</sup>里湖のまちづくり」の進めかた

かつて大川は地域に密着した河川でした。そこでは生活のための漁「おかずとり」が行なわれ、また、地域の子ども達が川と戯れる光景が日常的に見られました。

しかし、社会や生活が変化する中、このような関係性は薄れています。また、野洲川改修によって流入水が激減したことで、過去のような流れがなくなってしまい、水草が繁茂する内湖のような状態になっています。

私たちは大川について今後のあり方を検討するにあたり、まずは現在の大川のもつ様々な側面、たとえば「景観」や「水質」、「生物環境」、更には地域の中で大川がどのような役割を担ってきたかをしっかりと見定め、再評価することが重要であると位置づけました。

そのことによって、「里川」としての大川に新たな価値を見だし、「里湖」である琵琶湖、とりわけ河口部に広がる葦帯や湖辺地帯、更には様々な地域資源とともに、どのようなまちづくりが出来るかをじっくりと考えることにしました。

なお、取組については地域の皆さんを中心とし、学術機関、行政等様々な主体の連携によって進めることを基本とします。

## (1) 大川のもつ多様な価値をしっかりと評価します(期間:平成 23 年度から)

- ・ 水質や生物等の科学的調査とともに、地域の中で大川がどのように意識されてきたかを調査します
- ・ また、大川への関心を高める取組も幅広く実施します
- ・ 水草除去等、環境保全には継続して取り組みます
- ・ 実証実験等を通じて改善手法を検討します。また、関係機関等への働きかけを行ないます

## (2) 大川を活用したまちづくりについて考えます(期間:平成 25 年度まで)

- ・ 大川や周辺環境を活用したまちづくりの将来像をつくります
- ・ その中で水環境改善目標も取り決めます
- ・ 具体的な取組を全体構想として取りまとめます。また、その作業工程も明確にします

## (3) 全体構想に基づく具体的な取組を推進します

- ・ 地域・行政・学術機関がそれぞれの役割を分担し、協働で取組をすすめます
- ・ 必要に応じて検証を行い、取組を見直します

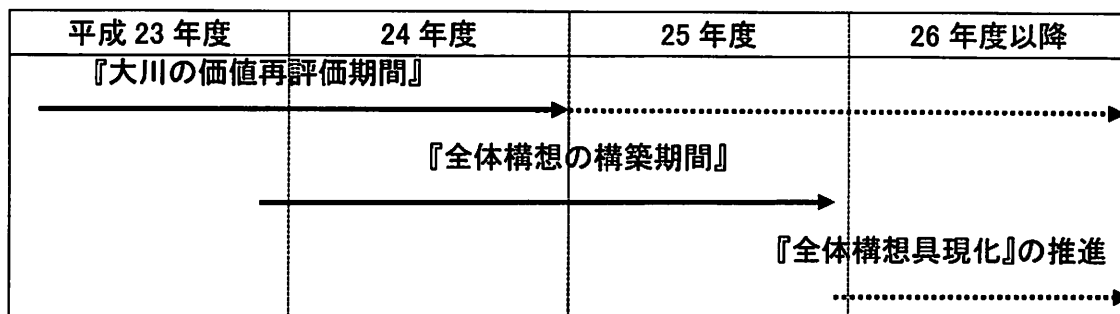


表 全体スケジュール(案)

## 2 平成 25 年度の取組

### (1) 各種調査の実施

- ・水質調査（実施主体 守山市）

### (2) 啓発活動等の実施

- ・ワークショップ「美崎寄り合い」（大川活用プロジェクト）
- ・美崎自治会大川委員会の開催（美崎自治会）
- ・地域住民や子ども達の大川への関心醸成のための各種取組（美崎自治会）
- ・水環境をテーマにした研究活動の交流（立命館守山中学校・高等学校）
- ・「大川フォーラム」開催（大川活用プロジェクト）
- ・「大川だより」発行（大川活用プロジェクト）

### (3) 環境保全の実施

- ・水草の定期的除去（美崎自治会）
- ・植生浄化事業（美崎自治会）
- ・河川敷の整地・整備（美崎自治会）
- ・水質浄化モデル実験（立命館守山中学校・高等学校）

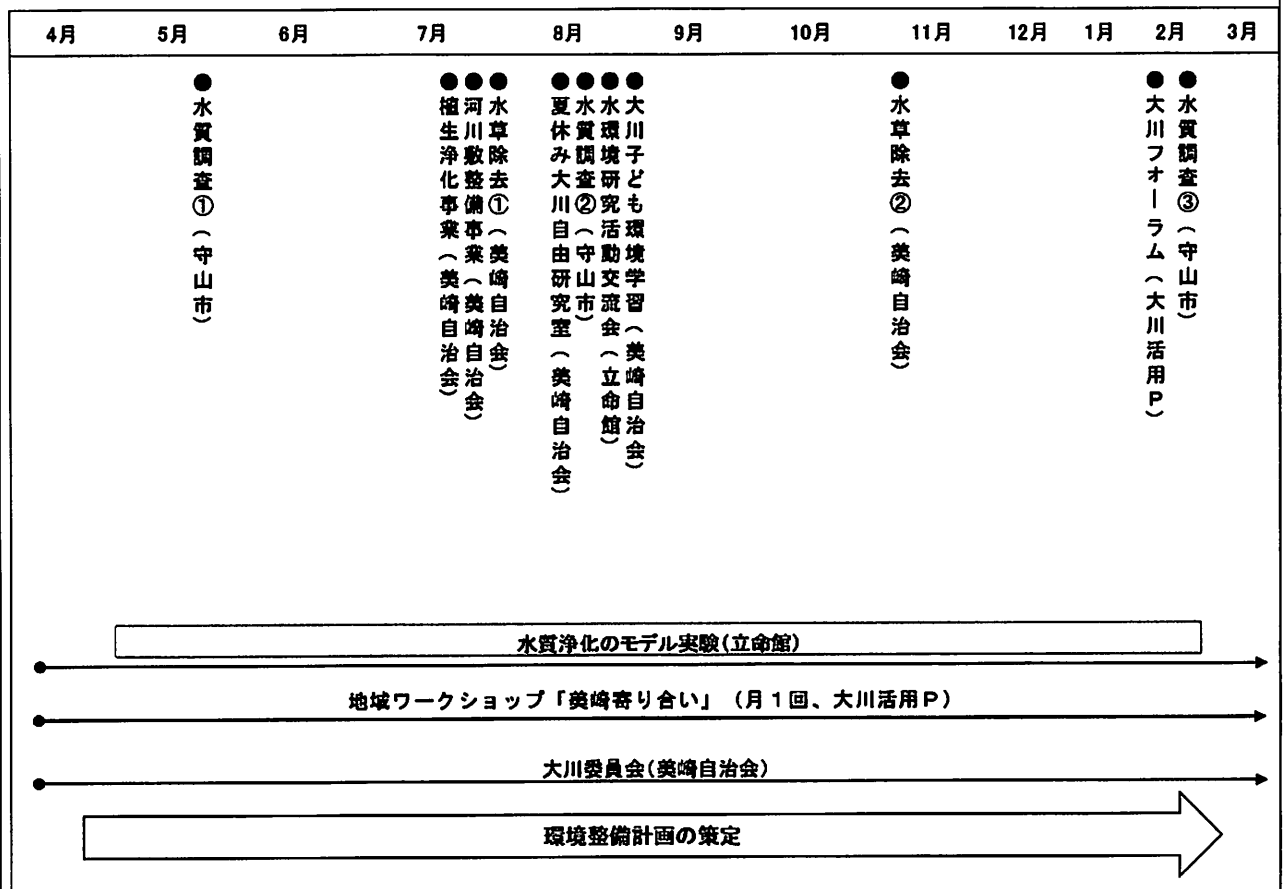


表 平成 25 年度の取組スケジュール

### 3 取組毎の概要

#### (1)各種調査の実施

##### ○水質調査

①実施主体 守山市（担当：環境政策課）

##### ②目的

- ・大川の水質の現状把握とともに、水草除去による効果を計測するための水質調査を実施し、今後の取組の基礎データとする

##### ③具体的活動内容

- ・委託業者による水質調査（PH、BOD、COD、SS、T-N、T-P、DO）
- ・調査は測地点毎（上流、中流、下流）の差異や季節変動を明確にするため、3箇所  
で年3回実施する

④実施時期(予定) 5月（水草除去前）、8月（水草除去後）、2月



## (2) 啓発活動等の実施

### ○ワークショップ「美崎寄り合い」

①実施主体 大川活用プロジェクト

#### ②目的

- ・平成 24 年度に取りまとめた「大川等整備の基本的考え方」をベースに具体的な整備計画等を盛り込んだ全体構想を策定する
- ・全体構想策定のため、地元住民を中心に関係者によるワークショップを開催する

#### ③具体的活動内容

- ・大川活用プロジェクトが実施する事業の企画立案および進捗管理
- ・大川や周辺環境を活用したまちづくりについて意見交換を行い、具体的な事業計画として取りまとめる

④実施時期（予定） 通 年 ※原則毎月第 4 火曜日

### ○地域住民や子ども達の大川への関心醸成のための各種取組

#### 【取組 1】 大川子ども環境学習

①実施主体 美崎自治会（参加者：小学生とその保護者）

（協力）立命館守山高等学校 Sci-Tech 部（TA として）

#### ②目的

- ・子ども達主体の水環境調査や自然観察会を実施することで、環境学習の機会を提供するとともに、地域への関心と愛着の醸成を図る。また、経年的にデータを蓄積し、大川の環境変化を把握する

#### ③具体的活動内容

- ・水質調査
- ・プランクトン調査
- ・お魚調査

④実施時期（予定） 8 月

#### 【取組 2】 夏休み大川自由研究室

テーマ：『食から知る大川の暮らしと自然』

①実施主体 美崎自治会（参加者：小学生とその保護者）

（協力）京大大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所

立命館守山高等学校 Sci-Tech 部

#### ②目的

- ・大川とその周辺の自然資源を活用して、夏休みの期間に子どもたちが地域の自然を楽しみに、自然を学ぶ機会を提供する。これまでの環境学習の取組を発展させるとともに、大川自然博物館構想の具現化に向けた取組の一環として実施する。

#### ③具体的活動内容

- ・体験教室（琵琶湖や大川での漁業体験、夏野菜の収穫体験）
- ・竹細工教室（大川周辺の竹を使った竹細工に親しむ）
- ・食の教室（川魚や夏野菜の試食、流しラーメン）
- ・お話教室（東南アジアの生活について）

④実施時期 8 月 3 日

**○水環境をテーマにした研究活動の交流（立命館守山中学校・高等学校）**

①実施主体 立命館守山高等学校 Sci-Tech 部

②目的

- ・立命館守山高等学校と同じ水環境に関する研究や活動を行っている高校生が集い、その成果を発表し交流する
- ・新たなネットワークの構築や今後の各校の取組の活性化につなげる

③具体的活動内容

- ・高校生による水環境にかかわる様々な分野の科学的な研究と水環境保全・改善にかかわる地域との連携活動の発表（立命館守山ほか6校参加）
- ・「大川活用プロジェクト」の具体的な取組について自治会を交えて発表し、参加校全体で地域連携のあり方についての意見交換

④実施時期 8月18日

**○大川フォーラム**

テーマ：「基本的考え方の具体化に向けて」

①実施主体 大川活用プロジェクト（参加者：市民オープン）

②目的

- ・大川や周辺環境を活用したまちづくりの将来像となる「全体構想」の構築に向けて市民の大川に対する関心を高めるとともに、自治会内での議論を更に深めていくことを目的に、フォーラムを開催する。

③具体的活動内容

- ・「美崎本」の発行
- ・本年度実施事業報告（夏休み大川自由研究室など）
- ・パネルディスカッション

④実施時期 平成 26 年 2 月

### (3)環境保全の実施

#### ○水草の定期的除去

①実施主体 美崎自治会 ※守山市委託事業

②目的

- ・繁茂する水草を除去することで景観改善に資するとともに、住民自身が作業を行なうことで大川への関心醸成に努める

③具体的活動内容

- ・ホテイアオイ等、大川に繁茂する水草の除去。なお、除去した水草については、堆肥化の検討も行なう

④実施時期(予定) 7月、10月 計2回実施

#### ○河川敷整備事業

①実施主体 美崎自治会

②目的

- ・大川的环境改善を図るため、グランド横の河川敷の整備を進める

③具体的活動内容

- ・法面除草作業
- ・河川敷の整地・整備

④実施時期(予定) 7月

#### ○植生浄化事業

①実施主体 美崎自治会

②目的

- ・水質汚染の主たる原因となっている窒素やリン等の栄養塩類の除去を行うため、水生植物を栽培し、これらの栄養塩類を取り込むことで、水質浄化を図る

③具体的活動内容

- ・水域内に筏状のフロート内でホテイアオイ等の水生植物を栽培し、栄養塩類を取り込む。栄養類を取り込んだ後、成長期が過ぎ、枯れ始めた植物を水域より引き上げる、肥料として農地に還元する。

④実施時期(予定) 7月から10月

#### ○水質浄化モデル実験

①実施主体 立命館守山高等学校 Sci-Tech 部

②目的

- ・河床に堆積したヘドロを焼き固めた「ヘドロセラミック(多孔性体)」を活用した水質浄化システムの構築に向け、その可能性についてモデル実験を通じて検証する。

③具体的活動内容

- ・実験施設でのモデル実験の実施

④実施時期 通年



## アジアの農村開発と大川の取組み ——大川の取組みの到達点と今後の方向——

安藤和雄（京都大学東南アジア研究所）

### 1. アジアの農村開発の略史と農村調査方法

- ・第二次世界大戦後 人口爆発による食糧危機
- ・先進国からの国際援助による発展途上国での農業・農村開発の実施
- ・「緑の革命」の反省から農業技術偏重から総合的農村開発
- ・速成農村調査
- ・参加型農村調査（RRA）
- ・主体的住民参加型農村開発（PRA）
- ・知識が問題把握と開発の力となる
- ・開発計画の作成、運営の主体の問題（PLA）
- ・在地化による農村開発：在地の技術、在地の知恵の発見と再評価

### 2. 日本の農村が抱える問題と農村再生

- ・「住民参加」？「文句をいわせないための手段」？
- ・過疎化、高齢化
- ・都市を見続けた農村
- ・農村で住む良さの再確認
- ・地元学の提唱
- ・地元で学び、知識をつくり、知識を力に
- ・当事者という誇りと主体性の確保

### 3. 大川の取組み

#### 到達点

- ・「寄合」：主体的住民参加の具体的プロセス
- ・環境保全から地域再生への広がり
- ・「新しい祭り」としての様々な事業：大川清掃、環境学習、夏休み自由研究
- ・高校、小学校、幼稚園、自治会、行政、大学などとの有機的關係
- ・その他

#### 今後の方向

- ・学び、創造すること、すなわち、地域再生の力
- ・美崎の「ざいちのち」を記録し私たちの「知」の集積：「みさき百科」の継続
- ・美崎に暮らすことの誇りの確認：当事者意識の美崎での共有化
- ・「新しい祭り」の定着化
- ・住民主体による真の住民参加による美崎型地域再生モデルとして周辺地域、守山、滋賀、日本、アジアへの発信
- ・その他

平成 25 年度活動記録 (H26 年 3 月まで)

日	活 動	概 要
4月11日(木) 20日(土) 23日(火) 4月～通年	美崎寄り合い (第1回) 水草除去活動 (第1回) 美崎寄り合い (第2回) 立命館守山高等学校サイ・テック部 水質改善の実証実験	・本年度の取組計画について ・「夏休み大川自由研究室」について① ・浮島実験、バイオフォーム実験など
5月6日(祝) 21日(火) 28日(火)	水草除去活動 (第2回) 市による水質モニタリング調査(第1回) 美崎寄り合い (第3回)	・上流部河川整備 ・上～下流 3ポイントで実施 ・「夏休み大川自由研究室」について②
6月9日(日) 10日(月) 13日(木) 25日(火)	植生浄化実験用のいかだの設置 美崎寄り合い (第4回) 美崎寄り合い (中核メンバーによる臨時) 美崎寄り合い (第5回)	・「夏休み大川自由研究室」について③ ・「夏休み大川自由研究室」について④ ・「夏休み大川自由研究室」について⑤
7月21日(日) 29日(月)	水草除去活動 (第3回) 美崎寄り合い (第6回)	・上流部の竹除去、草刈り ・「夏休み大川自由研究室」について⑥
8月3日(土)  12日(月) 17日(土) 18日(日) 20日(火)  26日(月)	夏休み大川自由研究室 『食から知る大川の暮らしと自然』 市による水質モニタリング調査(第2回) 水草除去活動 (第4回) 水環境研究活動交流会 『大川地域交流』 大川環境学習会(子ども対象)  美崎寄り合い (第7回)	・約120名参加、体験学習、食の教室等  ・上～下流 3ポイントで実施 ・草刈り ・約80名参加、立命館守山他6校が参加し、地域連携活動の経験交流など ・約60名参加、水質・生物調査等 ・立命館守山高等学校サイテック部による指導 ・「夏休み大川自由研究室」のまとめ① ・大川のこれからについて
9月1日(日) 30日(月)	生態系保全のため湖魚の稚魚を放流 美崎寄り合い (第8回)	・フナ・ワタカの稚魚を大川に放流 ・「夏休み大川自由研究室」のまとめ②
10月27日(日) 29日(火)	水草除去活動 (第5回) 美崎寄り合い(第9回)	・草刈り、植生浄化実験用のいかだ撤去 ・大川フォーラムについて① ・まちづくりの勉強会(安藤先生の講話)
11月24日(日) 25日(月)	水草除去活動 (第6回) 美崎寄り合い (第10回)	・河川清掃、護岸草刈り ・大川フォーラムについて② ・「みさき百科」の編集について①
12月20日(金)	美崎寄り合い (第11回)	・大川フォーラムについて③ ・「みさき百科」の編集について②
1月20日(月)	美崎寄り合い (第12回)	・大川フォーラムについて④ ・「みさき百科」の編集について③
2月1日(土)  13日(木) 25日(火)	第3回大川フォーラム 開催 「夏休み大川自由研究室」から考えるこれからの大川 市による水質モニタリング調査(第3回) 美崎寄り合い (第13回)	・活動報告、意見交換 ・約130名参加 ・上～下流 3ポイントで実施 ・フォーラムの総括
3月28日(金)	美崎寄り合い (第14回)	・次年度の事業計画について

## 『美崎寄り合い』 会議録

【件名】 平成25年度大川活用プロジェクト4月定例会議①『美崎寄り合い』

1 日時 平成25年4月11日(火) 19時00分～21時00分

2 場所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長他

(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)守山市

○環境政策課 筈井課長 ○建設管理課 村田課長、井上参事

○美崎公園 中村指導員 ○速野幼稚園 奥村園長 ○みらい政策課 木村課長、高田

4 会議概要

(1)平成25年度の取組(案)について

<全体>

①定例会「美崎寄り合い」の開催(毎月第4火曜日)

②美崎公園と地域の連携 出来るところから連携

③フォーラムの開催

・平成25年度の取組総括、外への情報発信といった点からも重要であり、実施すべき。

<美崎自治会>

①水草除去(市からの委託) 1回目(7/21)、2回目(11/24)

②水質浄化に向けた取組(植生浄化) H24から継続

・立命館守山でデータ測定・検証

・5月頃 植栽を予定

③子どもを対象とした取組の充実(子ども会)

・夏休み大川自由研究室の開催

(例)…水質調査、生物調査(魚)、自然観察会 データを体系的に整理

<美崎公園>

①自然観察会(月1回程度) 幼児から大人まで自然に対する感性を養う。

テーマ:水辺の植物と生き物たち(春)、バッタのオリンピック(夏)、美崎公園内にある8種類のドングリの見分け方(秋)、自然界の冬から春にかけての衣替え(冬)

②環境学習、体験学習 小学生中心

例:ネイチャーゲーム、ザリガニ釣り、自然を使った工作体験、ヨシを学ぶ勉強会(ヨシ刈り体験含む)など

③夏休み子ども教室 夏休みの自由研究に発展

例:ヨシ群落、新川の水質調査、プランクトン調査、ザリガニ釣り大会など

④米づくり体験 田植え⇒稲刈り⇒脱穀⇒餅つき体験

⑤ヨシと遊ぼう ヨシに学ぶ、ヨシ工作、ヨシ笛、ヨシ松明

(2)その他

・次回は夏休みの自由研究にかかるアイデア出しを行う。(ワークショップ形式)

・将来構想の具現化に向けて

大川再生ゾーンをどうするのか具体的なアイデア出し



【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 4 月定例会議② 『美崎寄り合い』

---

1 日 時 平成 25 年 4 月 23 日(火) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 高野氏、林孝一氏、山田好延氏、山田章賀氏、戸田氏、堀川氏、  
伊藤猛氏、北出氏、林清昭氏、山田美鶴氏、馬淵氏、山田貴幸氏

(2)京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)守山市

○環境政策課 菅井課長 ○建設管理課 井上参事 ○道路河川課 中島課長

○美崎公園 中村指導員 ○速野幼稚園 奥村園長 ○みらい政策課 木村課長・高

田

4 会議概要

(1)夏休みの自由研究のアイデア出し (安藤氏の進行)

・自治会において実施可能であり、子どもと一緒に楽しく遊べるものについて、各自がアイデアを出し合う。1人につき、思いつくものを3つずつ出し合う。

・・・・別紙一覧表のとおり。

・みんなが出したアイデアを次回までに市の方で整理し、具体の事業計画を作成する。また、プランの作成にあたっては、子どもの意見を聞くこととする。

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 5 月定例会議 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 5 月 28 日(火) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長、池田氏、林氏、北出氏、加藤氏、馬淵氏、伊藤猛氏  
山田美鶴氏、山田章賀氏、山田貴幸氏、山田好延氏、苗村氏、高野氏

(2)京大大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)立命館守山中学校・高等学校 S S H 推進機構 八木氏

(4)守山市

○環境政策課 筈井課長・井上主任 ○美崎公園 中村指導員

○速野幼稚園 徳田主幹教諭 ○みらい政策課 高田

4 会議概要

(1)夏休みの自由研究のアイデア整理について (安藤氏の進行)

※前回の会議で参加者から出たアイデアを別紙に取りまとめた。これをカテゴリー別に分類し、複数のアイデアを組み合わせ、具体的なプランについて検討した。

①カテゴリーは以下の 6 つとし、72 のアイデアを参加者がひとつひとつ該当するカテゴリーに分類した。(別添のとおり)

A : 農業、B : 食、C-1 : 遊び(川)、C-2 : 遊び(川以外)、D : つくる

E : 地域に学ぶ、F : スポーツ

○最優先すべきもの、「魚つかみ」(川遊び)

○C-1 遊び(川以外)と E 地域で学ぶの内容は似ている。「植物や昆虫の観察」、「高齢者との交流」、「つくる」。(キーワード)

②分類整理したものからキーワードを見つけ出し、同じようなアイデアや優先順位等を整理し、アイデアを組み合わせ以下 5 つのプラン(案)を作成した。

A : イカダコース ※体験学習(3日間コース)

竹イカダづくり⇒イカダに乗って魚をつかむ⇒魚を食べる⇒料理(川原でキャン

B : 流しそうめん、カレーコース(食)

竹細工、竹流し台、竹でご飯を炊く(竹めし)、竹で箸をつくる、竹とんぼ、水鉄砲、

C : ウォークラリーコース

絶景ポイント探し

D : 地引き網コース(漁師見習いコース)

働く・調べる・食べる

E : ひと夏の農業体験コース

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 6 月定例会議① 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 6 月 10 日(月) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長、高野氏、林幸一氏、山田好延氏、戸田氏、伊藤猛氏、北出氏、林清昭氏、苗村氏、山田章賀氏、鈴木氏

(2)京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)守山市

○環境政策課 井上主任 ○建設管理課 井上参事

○速野幼稚園 石田先生、中畑先生 ○みらい政策課 高田

4 会議概要

(1)夏休みの自由研究について

前回に作成した具体的な 5 つのプラン（案）について、グループに分かれて意見交換  
各班から出た意見は以下のとおり

○1 班

・幼稚園児の視点で検討した。

・なぎさ公園での砂遊びは幼稚園児も喜ぶ。園の砂場とは違った体験が出来る。

・イカダづくりは幼稚園児には難しい。ザリガニ釣りなら可能。

・カレーや流しそうめんは楽しそう。

○2 班

【A：イカダコース】

・イカダの大きさは 2 m 四方、数は 3 つぐらいつくる。

・竹をつかってイカダをつくるが、水に浮くよう発砲スチロールを補助的に活用する。

【B：流しそうめん、カレーコース】

・カレーを作りは止めて、流しそうめんに一本化する。

・場所は桜友館かグラウンドで行う。

・食事に使う皿と箸は、みんなで作る。

○3 班

【A：イカダコース】

・3 日間コース。1 日目はイカダの設計および材料集め＋流しそうめん。2 日目はイカダの組立＋カレーづくり。3 日目はイカダで川下り。＋魚をつかんで食べる。

【B：流しそうめん

・1 日コース。竹細工＋竹飯⇒遊ぶ。

【C：ウォークラリーコース】

・半日コース。

【D：漁師見習いコース】

・2 日間コース。1 日目漁業体験。2 日目採った魚をつかって料理＋勉強会。

【E：ひと夏の農業体験コース】

・農業体験（草取り、収穫作業）＋野菜を使ったカレーづくり

○4 班

・夏休み期間中に出来るとしたら 3 回程度（準備 1 日、実施日 1 日×3 回＝6 日間）



- ・プランの再編について検討
- ・再生ゾーンに穴を掘って水を入れる。魚を放して、魚つかみをする。
- ・ハスの塩焼きを食べさせてあげたい。
- ・農業体験（野菜の収穫）⇒夏野菜カレー
- ・魚つかみ⇒小糸漁
- ・子どもたちも忙しいため、何日間も実施するのは難しいかもしれない。

※決定事項

○開催日：8月3日（土）

- メニュー：①【高学年】漁業体験⇒魚収穫【低学年】農業体験⇒農作物収穫  
 ②竹細工（伝統細工）⇒皿や箸の作成  
 ③流しそうめん、料理教室（伝統食）

○開催日：8月8日（木）

立命館守山の指導による環境学習会 ※例年実施

(2)美崎自治会の平成25年度事業計画について

別紙資料に基づき伊藤自治会長より説明

(3)その他

○6月13日（木） 17時30分～

プロジェクト会議の開催（自治会長、安藤先生、戸田さん、山田さんほか）  
 事業計画づくり

○8月18日（日） 9時30分～11時

立命館守山高等学校主催「水環境研究・活動交流会」

「大川活用プロジェクト」の紹介と地域連携活動の経験交流（美崎自治会館）

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 6 月定例会議② 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 6 月 25 日(火) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者 別紙のとおり

4 会議概要

(1)今後の事業等スケジュール (美崎自治会)

・ 6/29(土)19:30～ 大川委員会

・ 7/14(日) 8:00～ 外来魚駆除釣り大会

・ 7/15(祝) プータンからの研修生との交流会

・ 7/21(日)10:00～ 大川水草除去および清掃

・ 8/ 3(土) 8:00～ 夏休み大川自由研究

※「守山市市民提案型まちづくり支援事業」のプレゼンが 6/23 にあり、助成金 15 万円の交付を受けることが内定した。

・ 8/18(日) 9:30～ 水環境活動交流会/大川地域交流 (立命館守山高等学校他)

・ 8/20(火) 環境学習会 (水質調査、プランクトン調査)

(2)夏休みの自由研究について

○ 6/13 (木) 主力メンバーによる打ち合わせを実施し、決まった内容は以下のとおり

・ 8 月 3 日 (土) の午前 8 時にスタート

・ 参加者を年齢別に 3 つのグループに別けて、年齢に応じた体験の場を用意する。

① 5・6 年生(定員約 15 人) 琵琶湖に出て漁業体験 (刺し網、ウナギつかみ)

② 3・4 年生(定員約 15 人) 大川で小魚つかみ (しばづけ)

③ 1・2 年生・園児 (定員約 15 名) 畑での夏野菜の収穫体験 (なす、すいか等)

※①～③には大人が引率する。

・ ①～③の体験終了後に竹を使ってもものづくり (竹はし、竹の器など) を行い、その後、流しそうめんや琵琶湖の魚、収穫した夏野菜を食べる。

・ 午後は自治会館で座学。東南アジアと日本の農と漁の違いについて安藤先生から講義を聞く。

・ 市はライフジャケットを手配。⇒ 8 月 3 日は漁業まつりが開催されるため、大半が貸出済。

・ 概ね 100 名程度 (子ども 60 名+大人 40 名) の参加を想定。

・ 次回会議 (7/29) では、当日の役割や材料の調達方法について話し合いを行う。

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 7 月定例会議 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 7 月 29 日(月) 19 時 00 分～21 時 25 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長他

(2)京大生存基盤科学ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)立命館守山中学校・高等学校 SSH推進機構長 八木氏

(4)守山市 環境政策課 井上主任、みらい政策課 高田

4 会議概要

(1)夏休み大川自由研究室について【主催：大川自然博物館研究室（美崎自治会）】

●別紙資料に基づきタイムスケジュールの最終調整および役割分担の確認

新たな決定事項および変更事項は以下のとおり

- ・オープニングで子どもたちに竹をつかって「おもちゃのチャチャチャ」を合奏
- ・びわ湖の漁業体験の出発地点「ピエリ守山横の舟溜」
- ・竹細工は一から作るには時間が足りないので、あらかじめ用意した竹とんぼや竹ぼっくりで遊ばせる。竹の食器づくりについても最後の仕上げ程度。
- ・お話教室は安藤先生の紹介によりミャンマーのキン・レイ・シュエ先生（国際交流基金フェロー）から「ミャンマーの人々の生活」についてのお話を聞く。

●準備事項と体制（別紙に基づき確認）

・7/29 現在の参加者の申込状況は以下のとおり（計 32 名）

美崎子ども会 高学年 8 名、中学年 8 名、低学年 8 名

自治会に直接申込 高学年 1 名、中学年 5 名、低学年 2 名

- ・定員に余裕があればネオ・ベラヴィータ守山自治会から参加希望の声があったので、伊藤自治会長から声をかけていただき、子どもの数はもう少し増える。
- ・参加する子どもたちには、体験学習等で気づいたことをメモする筆記用具を持ち歩くための、ビニールケース（首からぶら下げられるようひもを付けたもの）を配布、
- ・立命館守山高等学校の生徒 5 名が参加し、当日ビデオ撮影を行う。
- ・市からは上路教育長が参加予定。
- ・ライフジャケットは市が手配。前日までに自治会館へ持込。
- ・マスコミへの資料提供は市が行う。（当日の取材を依頼）

●水環境研究活動交流会（大川地域交流）について【主催：立命館守山高等学校】

- ・別紙資料に基づき計画内容を八木先生より説明
- ・美崎自治会からは 10 名程度参加予定。市からも市長、環境政策課が参加予定
- ・今年も大川子ども環境学習会を 8/20 に開催。内容は昨年とほぼ同じ。

(2)その他

- ・次回は 8/26（月）19 時から開催。研究会の反省会が中心になる。
- ・整備計画の策定に向けて、前回行っていない人もいたので、再度「河辺いきものの森」（東近江市）へ視察に行きたい。



【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 8 月定例会議 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 8 月 26 日(月) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長他

(2)京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)立命館守山中学校・高等学校 SSH推進機構長 八木氏

(4)守山市 建設管理課 井上参事、みらい政策課 高田

4 会議概要

○伊藤自治会長あいさつ

- ・今夏の各種事業にご協力をいただきありがとうございました。大きな成果があったと考えています。  
※水草除去 2 回 (7/21・ )、夏休み大川自由研究室 (8/3)、水環境研究活動交流会：大川地域交流 (8/18)、環境学習会 (8/20)
- ・本日は以下の 2 点について、話をしたい。
- ・いろいろなことがあって、市に頼らず自治会で一部整備を進めて来たところだが、先般宮本市長から、現在市の方で計画策定を進めている「まるごと活性化プラン」の中に大川の整備を位置づけ、次年度予算化をして進めたいので、地元から大川をどうするのか是非提案をして欲しいとのことであった。
- ・自治会だけで整備を考えていたので、まず整地をした上流部を中心に整備を考えていたが、市の方からは北部地域の活性化を行政課題としているため、上流部分はもちろん、河口部分も意識した提案をお願いしたいとのことであったため、急いで議論を進めていく必要である。
- ・市の予算編成が担当レベルで 10 月から 11 月にかけて取りまとめられるので、9 月、10 月で提案できる内容を議論していくスケジュールになる。

(1)夏休み大川自由研究室のまとめ【主催：大川自然博物館研究室（美崎自治会）】

- ・子どもたちのアンケートを含め、実施した記録を残すことが大切である。
- ・子ども会の方が参加者のアンケートを取りまとめているので、次回の寄り合いで内容を提示したうえで議論を行う。

(2)大川のこれからについて

- ・今年度、市が重点事業として取り組む、「まるごと活性化プランの策定」については、学区単位で魅力ある地域資源の掘り起こしを行い、それらの地域資源を活かした活性化策について委員会を設置して議論を行い、プランとして取りまとめられる予定。
- ・速野学区については、現状認識の作業が終わったところであり、今後、何をテーマに活性化をするのかといった議論を行うことになるのだが、市の方に、大川の取組については、既に議論が進んでおり、魅力的なテーマでもあることから、北部地域の活性化については欠かせないものであるとの認識してもらっており、学区の議論はまだ半ばであるものだが、プランに位置づけたいと考えてもらっている。
- ・大川の整備については再生ゾーン、回廊ゾーン、河口部ゾーンの 3 つのゾーンに分けて検討しているのだが、自治会としては、既に着手をしている再生ゾーンを子ども達の学びや遊びの場として整備することを中心に考えていたが、北部地域の活性化という観

- 点であれば、ラフォーレやピエリ、菜の花やハマヒルガオ、美崎公園やなぎさ公園がある地域ということで、より魅力が高まり、活性化するような計画を期待されていると思っている。
- ・再生ゾーンだけでなく、併せて、河口部ゾーンについても意識しながら議論をする必要がある。
  - ・これまで、大川を中心に議論を行ってきたもので、北部地域ということをそれ程強く意識をしていないので、皆さんの中であまりイメージがわからないのではないか。
  - ・我々が議論するのは、これまでどおり大川中心で良いのであって、大川を中心にまちづくりを進めるが、結果として北部地域の活性化に繋がるものと考えている。
  - ・北部地域の活性化を考えるのなら、美崎でやって来たようなことを他の地域でも同じようなことをやってもらえば良い。そして、各地域でまとまとめたものを出し合って速野学区のプランとしてまとめるといった手法で行うべきである。
  - ・具体的な議論のテーマとして考えられるのは、例えば、大川の河口部については、砂が溜まって水の行き来を悪くしているので除去したいのだが、自治会の力では難しいので、行政の仕事としてお願いしたい。また、難しいかもしれないが、現在大川において用をなさないと考えられる水門の撤去についてもお願いをしたい。更には、比良山をバックに琵琶湖が望め、しかも大川の水景もある。ところが、そういった素晴らしい景色をゆっくりと楽しむところがない。例えば、賛否両論あると思うが、大川の真ん中にテラスのようなものを設置して、ゆっくりと景色を楽しんでもらうといったようなことを議論できれば良いと考えている。同時に、北部地域の活性化を考える上で大事なことであり、かつ自治会では残念ながら実施することができない、やはり行政の仕事になってくる。
  - ・途中から自治会だけでやるという条件の下、大川だけの議論に限定することに方向転換をすることになったのだが、もう一度、オープンミュージアムということで、新川や美崎公園の議論をやっていくことで、様々な大きなテーマがあると思うし、自治会だけで実施することはできない。
  - ・導水の話はどうなっているのか。随分と前から検討をいただいているが、状況を説明して欲しい。結局のところ何も出来ていないのではないか？
  - ・手法としては、北川水利組合、法竜川の水をおうみんちの辺りから引っ張る、地下水のポンプアップ、野洲川の水をパイプで引っ張るといった4つの方法が考えられる。
- ⇒いろんな可能性について現在検討をしている。詳細については、次回に整理をして説明をさせていただきたい。
- ・けもの道の upstream に 1 m 以上ヘドロが溜まっているので、県の方にはなるべく埋めてもらえるようお願いをしている。水を流すとヘドロが大川に溜まるのではないか。
  - ・河口部を広げる（州がある）必要があるが、広げると外来魚が入って来やすく、こないような仕掛けを考える必要がある。

### (3)その他

- ・次回予定を変更して9/30（月）19時から開催。整備計画検討のためのワークショップを開催するので、いつものように市の方でポストイットを持参する。
- ・安藤氏の美山町での活動を9/2（月）18：20～ 関西テレビのニュースで放映予定
- ・平成25年度の大川だよりを2号まとめ発行する。これまで、記事を書くのが同じ人ばかりなので、今後はより多くの人に記事を書いてもらうようにする。

①夏休み自由研究室中心（記事担当：子ども会会長 池田氏、馬淵氏）

- ②水環境研究活動交流会中心（記事担当：立命館守山、市環境政策課 井上氏）  
・平成25年度実施計画書を早期に取りまとめる。

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 9 月定例会議 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 9 月 30 日(月) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長、高野氏、林孝一氏、山田貴幸氏、永井氏、北出氏  
山田章賀氏、山田美鶴氏、木本氏、山田好延氏、林清昭氏、苗村氏  
戸田氏、池田氏

(2)京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)守山市 環境政策課 井上主任、みらい政策課 木村課長、高田

4 会議概要

(1)伊藤自治会長あいさつ

- ・本日は夏休み自由研究室の総括、次年度実施に向けた意見交換を中心に議論
- ・参加者アンケートの集計結果 別紙のとおり (参加者約 60 人、回答者 37 人)

(2)夏休み大川自由研究室について ※意見や感想は以下のとおり

①びわ湖の漁業体験教室【5、6 年生対象】

- ・ピエリ守山港までが遠く、移動手段を心配したが、自家用車による移動で大きな問題はなかった。
- ・今回実施した仕掛け (刺網 2 枚、エビタツベ 5 ケ) では、獲れた魚類が少なかった。そのため、進行がスムーズに行き過ぎて、時間を持て余すことになった。
- ・来年度は、エリや地引き網の導入についても検討してはどうか。

②大川の小魚教室【3、4 年生対象】

- ・ツケシバ (12～13)、エビタツベ (5～6) 3 日前に設置した。収穫が少なかったためもう少し早めに設置すべきだった。
- ・ツケシバなどの設置を子ども達に体験させてあげたい。
- ・子どもたちは、船に乗ることや珍しいものを見ることが出来て喜んでいて。
- ・船で岸に寄って、タモで魚を採らせてあげたら喜んでいて。
- ・魚の収穫よりも、子ども達にいろいろな体験が出来る機会を提供することが大切である。

③夏野菜の収穫体験教室【幼児・1、2 年生対象】

- ・子どもたちが生き生きと収穫している姿が見られ、大変有意義であった。
- ・好きなもの (メロンやすいか) を好きなだけでとれるようにしてあげたかった。
- ・説明の時間が十分でなかった。
- ・収穫したものを自分で料理し、食べるまで経験させてあげられると、なお良い。
- ・来年の準備として、当日収穫用の野菜を植えておく必要がある。
- ・収穫場所までの距離が長く、徒歩による移動が低学年には少しきつように思われた。

④竹遊び

- ・メニューが盛り沢山で、竹細工に十分な時間を費やすことが出来なかった。
- ・ナイフやなたの使い方なんかも教えられると良いと思う。
- ・遊ぶ時間すらあまりなかった。もっとゆっくりと遊べる時間を確保すべき。
- ・水鉄砲は低学年の子どもには好評だった。
- ・竹割り等の準備 (竹箆や竹の器づくり) が大変だった。



### ⑤食の教室

- ・流しそうめんは大盛況。次回以降も是非実施すべき。
- ・小さい子ども用の流し器が1個では足りなかった。(もう一つ必要)
- ・魚料理や流しそうめんに比べて、野菜料理の印象が薄いように思えた。
- ・かやくごはん(2升)が足りなかったため、大人の参加者に行き渡らなかった。
- ・食べ物に関する説明がもう少しあっても良かった。
- ・野菜(きゅうりやトマト)を水に浮かべ、生で食べさせても良かった。
- ・興味を持ってもらうという所期の目的が達成出来て良かった。
- ・最初に魚や野菜を食べさせてから、流しそうめんをすれば良かった。

### ⑥全体

- ・ノートとペンを参加者に配布したのは良かった。子どもたちが一生懸命記録を取っていたのが印象的だった。
- ・子どもたちに体験したことの発表の機会を与えられたら良かった。
- ・参加者規模としては、今年ぐらいで限界か?参加者が多すぎて対応が出来ない。  
内訳:びわ湖9人、大川20人、野菜20人 ※びわ湖は20人までなら対応可能
- ・参加者の呼びかけが中途半端になってしまった。
- ・体験学習と食を結びつけたことは正解だった。
- ・子どもたちに普段食べていない川魚を食べさせるなど、地産地消にも繋がる取組である。また、湖魚の消費拡大という観点から地域産業の振興にも繋がる。
- ・偶然見つけたカブト虫に大変興味を示していたので、昆虫採集をメニューに追加しても良いかもしれない。
- ・午後からのお話の前に帰りたがる子どもがいたため、プログラムに工夫が必要。
- ・夏の事業は、長時間開催になると子どもたちは疲れてしまう。
- ・予定より30分早く終了したため、その時点で親がまだ迎えに来ていなかった。
- ・自然博物館構想に繋がる取組(きっかけ)である。
- ・自治会役員の顔ぶれが変わっても、継承される体制づくり
- ・地域づくりのテーマ「子育て環境を良くする」

### (3)その他(今後の予定等)

- ・平成25年度大川フォーラム 平成26年2月1日(土)午後開催
- ・10/10(木)19:30~ 地球市民の森(ふるさとゾーン)工事説明会
- ・10/27(日)8:30~ 水草除去/植生浄化のイカダを撤去
- ・11/24(日)10:00~ 市民参加と協働のまちづくりフォーラム 活動発表  
「夏休み大川自由研究室」

## 【件名】 平成25年度大川活用プロジェクト10月定例会議『美崎寄り合い』

1 日時 平成25年10月29日(火) 19時00分～21時00分

2 場所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長他

(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)守山市 環境政策課 筈井課長、井上主任、建設管理課 井上参事  
みらい政課 木村課長、高田

4 会議概要

(1)大川フォーラムについて

・平成26年2月1日(土)午後開催

・現時点で考えられるテーマは以下のとおり。

①夏休み大川自由研究室

②博物館構想の具体化について

③自治会で整地したところ、きれいな川砂(市の方で確保)を撒く予定。活用方法のイメージ(子どもたちが水遊びをできる環境)があるが、具体的に絵がかかるぐらいのまでの議論が必要【再生ゾーン】

(2)今後必要な議論(目標)

・将来構想(3つのゾーン)の具現化

・地球市民の森との一体性。県の工事が始まった。上流部とどうつないでいくのか。

・ケモノ道との境、県はもう少し大きなパイプを入れて水が流れるようにする予定

・出来るところからやっていく。話ばかりしていても、前には進まない。

・ハード面(整備)とソフト面のすみ分け。具体的な計画をつくる。

・ソフト面の取組として、美崎を知るためのパンフレット(漁業や農業など)をつくってはどうか。地道に取組を進めることで、地域も盛り上がり、やっていても楽しい。オープンミュージアムの取組にも繋がる。

(3)安藤先生の講話(勉強会)

・日本で言う「村おこし」、「地域再生」を外国では「農村開発」「農村発展」と呼ぶ。

・P L A(参加型学習行動法=Participatory Learning and Action)は、農村調査の方法という観点からさらに進めて、住民自身が自ら課題を発見して問題を解決するまでの一連のアプローチと方法のことである。ケーススタディとして外へ発信していく。

・バングラデシュの社会では、反対意見がない議決はまやかしたという考え方がある。人間が全て同じ考えで、一つの意見にまとまるということはありません。更には、個人の行動や考えを大事し、強引に物事を進めはしない。美崎自治会でも同様のことが言える。決して物事を強引に進めようとはせず、誘導することもない。

・行動して実践することのみが矛盾を超えていける。(理論的なこと)

・今の日本が八方ふさがりの状況に陥っている理由は、このこと(行為・行動)を忘れ、何事も頭で考えてしまうことである。

・問題を解決するため本当に必要なことは、美崎が実施しているように、人が集まり腹を割って話し合い、矛盾を是正するための行動をすぐに起こす。その結果をフィードバックし、分析のうえで再度行動に繋げる。

- ・美崎のみなさんには今のやり方に、是非とも自信を持ってもらい、今後も取組を進めていてもらいたい。
  - ・ソフトとハードの取組を上手く組み合わせることで、その取組も盛り上がってくる。  
⇒自らが動き、汗をかくことが社会的な関心をひくことになると考えた。大川では、先ずは水草除去が成功した。続いて、開催した夏休み大川自由研究室については、地域が自主的また主体的に取組を進めた結果、予想していた以上に盛り上がった。（内発的取組）
  - ・少数意見（反対意見）を大事にする。日本はこれまであまり大事にしてこなかった。
- (4)その他（今後の予定等）
- ・大川の資料集を作成する。テーマ「植物」、「魚」、「農産物」、「鳥」など。子どもたちにも理解できる内容のもの。来年2月のフォーラム開催までに作成する。
  - ・次回は11/14（木）午後7時から臨時開催。「大川フォーラム」の内容について議論。
  - ・11月の寄り合いは、11/25（月）に開催。

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 11 月定例会議① 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 11 月 14 日(木) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長他

(2)守山市 環境政策課 井上主任、みらい政策課 高田

4 会議概要

(1)大川フォーラムについて

- ・伊藤自治会長より別紙開催企画（たたき台）を提示
- ・昨年度は、「大川等整備の基本的考え方」を発表した。今年度のテーマは「基本的考え方の具体化に向けて」とする。
- ・議論のテーマは、大きく 3 つ。①水質（立命館守山高校の取組）②大川の活用策について（自然博物館構想、夏休み自由研究室）③北部地域活性化への寄与策（まるごと活性化の取組）
- ・フォーラムを盛り上げるためのソフト面の取組  
「美崎の本」を発行、夏休み自由研究の写真展、ムクロジを使つての工作。

(2)美崎本の発行について

- ・ 2 月 1 日のフォーラムで配布
- ・概要については、別添編集企画案のとおり。
- ・項目に生活編を追加する。

(3)その他

- ・地球市民の森（ふるさとゾーン）がきれいになった（県がきれいにした）ので、大川上流部の住宅側にある竹藪が妙に目立つようになってきた。
- ・県は、地球市民の森と大川の間に細いヒューム管が 3 本ほど入っている。県はそれを太くする予定だが、どこに入れるのかを県に申し入れを行う必要がある。下流の構想が決まらなると場所が決められないので、早急に議論を行う必要がある。
- ・整備のイメージとして、昨年度に行った河辺いきもの森（東近江市）をイメージしている。人工の河川をつくつて、水はポンプで汲み上げて流している。



【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 11 月定例会議② 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 11 月 25 日(月) 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長、高野氏、林孝一氏、伊藤猛氏、北出氏、苗村氏、木本氏、山田好延氏、山田美鶴氏、林清昭氏、戸田氏、山田貴幸氏、馬淵氏

(2)京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)立命館守山中学校・高等学校 SSH推進機構長 八木氏

(4)守山市 環境政策課 筈井課長、井上主任、美崎公園 中村指導員  
みらい政策課 木村課長、高田

4 会議概要

○伊藤自治会長あいさつ

・本日議論すべき項目としては、①来年 2 月 1 日に開催する大川フォーラムの骨格を固めること。②「大川とその周辺の博物学の本」(みさき百科)をどのように編集して取りまとめるのかの 2 点。

(1)大川フォーラムについて

・伊藤自治会長より開催企画(別紙)に基づき説明。

<意見等>

- ・PRの手法として「夏休み大川自由研究室」にスポットを当てることで、同事業に参加をしていた人にフォーラムへの参加を誘導できる。
- ・「夏休み大川自由研究室」、「みさき百科」、「大川フォーラム」の 3 つの事業をうまく連携させることで、地域住民に地元の良さを再発見してもらえる。
- ・立命館守山の生徒が「夏休み大川自由研究室」の当日の様子をビデオ撮影しており、フォーラム当日に映像を流すことは可能。
- ・立命館守山の今年度の取組としては、大川の現状が一定把握できたことから、昨年度までのように水質調査は実施せずに、ヘドロセラミックやバイオフィルムによる水質浄化の実験が中心。水質については、市の調査結果を活用。

(2)「みさき百科」について

- ・伊藤自治会長より編集内容(別紙)に基づき説明
- ・作業期間も短く、最初から完璧なものをつくることは難しい。平成 25 年度版を取りまとめた後に、内容を充実していけば良い。
- ・今回は印刷経費もなく、きちんと製本したものがつくれないため、コピー機による印刷等で対応する。

※編集担当者等は以下のとおり

- ・「2. 美崎の歴史」 担当：伊藤自治会長  
内容：最初に解説を入れて、資料として歴史年表と今浜村から独立するための嘆願書を添付する。
- ・「3. 川と生活」 担当：  
内容：昨年度にワークショップを実施した「大川の良いところ・思い出探し」で出た意見を更に詳細に記載し、取りまとめる。
- ・「4. 農業と農産物」 担当：山田章賀氏

内容：まずは、美崎の特産物（メロンや大根など）のリストアップし、いつ頃からどれだけ栽培しているのかをまとめる。更に、いつ頃に植えて、いつ頃に収穫するのか等の解説も加える。

- ・「5. 魚類と漁業」 担当：戸田氏

内容：戸田氏が過去の学習会で使用した魚の資料をベースに作成。

- ・「6. 植物」 担当：

内容：2年前に開催した大川周辺自然観察会（作成：中村一雄氏）で使用した資料を引用。

- ・「7. 鳥類」担当：中村宗三郎氏（美崎公園指導員）

内容：資料「年中みさきで見られる鳥たち」をベースに作成。

#### <意見等>

- ・農業や漁業、家内工業（今は既になくなってしまったものを含む）。美崎が本当に豊かになるために、土地にある生業（なりわい）に光をあてる。
- ・自分たちが住んでいる地域の良さが若者に伝わっていないので、この機会にしっかりと継承すべき。

#### (3)その他

- ・次回は12月20日（金）に開催。みさき百科の原稿を取りまとめる。

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 12 月定例会議 『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 25 年 12 月 20 日(金) 19 時 00 分～20 時 45 分

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長、高野氏、林孝一氏、北出氏、伊藤猛氏、苗村氏、山田美鶴氏、戸田氏、山田好延氏、村井氏、木本氏、

(2)京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)守山市 速野幼稚園 奥村園長、徳田主幹教諭 美崎公園 中村指導員

環境政策課 菅井課長、井上主任 みらい政策課 木村課長、高田

### 3 会議概要

○伊藤自治会長あいさつ

- ・本日議論すべき項目としては、①「大川フォーラム」の開催内容を決定すること。②「みさき百科」の編集内容を確認することの 2 点。

(1)大川フォーラムについて

- ・伊藤自治会長より開催企画（別紙）に基づき内容説明。
- ・論点は 2 つ、①「夏休み大川自由研究室」から考える今後の大川。②「大川等整備の基本的考え方」の具体化のための次の論点
- ・報告②大川の価値と期待のところで、立命館守山高等学校に環境学習のフィールドとして、大川をどんな風に活かしたいのか、どんな風にして欲しいのかについて発表をお願いしている。また、速野幼稚園（奥村園長）からも、子どもたちが、大川にどんな環境を期待するのかといった視点から話をして欲しい。その結果、自然博物館としての目指す方向が少し見えてくるのではないかと考えている。

<意見等>

- ・守山のまちづくりから見て、大川の取組がどのように見えるのか。また、どのように活かしていけるのか。住民参加型のまちづくりのモデルとなる取組（トップダウン方式でなくボトムアップ方式であるところが大きな特徴）であり、美崎から学んだ守山市のまちおこし。この取組をモデルにして、市は今後どのようにまちづくりを進めていくのかについて、市の考え方を発表して欲しい。  
⇒速野学区のまるごと活性化の議論の一つに、オープンミュージアムの話が出ている。大川の取組は先進的で、まちづくりの方向性を決める時の意志決定の手法としてモデルになる。市のまちづくりの進め方について、守山市がまちづくりがどのように進めて行こうとしているのかについて、生涯学習の切り口を加えて報告する。
- ・来年の方針について触れる部分は？  
⇒自治会は、報告③『「大川等整備の基本的考え方」と具体化への取り組みの』の中で少し触れられたらと思っている。  
⇒幼稚園では、来年子どもたちが大川のことがよくわかる「紙芝居」のようなものを教員でつくることを目標にしたいと思っている。
- ・来年、湖魚の料理教室（幼稚園の保護者を対象）を幼稚園のプログラムと連携して実施出来れば、小さい子どもたちが地元で捕れた魚を食べようになる。
- ・幼稚園の子どもたちが、どんな遊び場が欲しいのかといった期待は、大川の再生ゾー

ンの整備のアイデアにもつながる。

(2) 「みさき百科」の編集内容

- ・伊藤自治会長より全体構成（別紙）に基づき内容説明。
- ・生活史のようなものも入れたかったが、材料等を集めることが難しく、今回は断念した。

<意見等>

- ・最初なので、出来るところからやれば良いと思う。今回入れられなかった項目（お祭り等）については、来年以降に追加していければ良い。積み上げ方式で作り上げて行けば良い。
- ・資料集の方に、大川の環境改善について、3年間の水草除去等の取組を整理したものを追加してはどうか。

(3)その他

- ・次回は1月20日（月）に開催。フォーラムの当日資料、「みさき百科」の最終確認。



【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 1 月定例会議『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 26 年 1 月 20 日(月) 19 時～21 時

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長、高野氏、林孝一氏、北出氏、伊藤猛氏、林重彦氏、山田美鶴氏  
永井氏、木本氏、山田好延氏、山田章賀氏、戸田氏、山田貴幸氏

(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)立命館守山中学校・高等学校 S S H 推進機構長 八木氏

(4)守山市 速野幼稚園 奥村園長、美崎公園 中村指導員  
環境政策課 井上主任 みらい政策課 高田

3 会議概要

○伊藤自治会長あいさつ

・本日議論すべき項目としては、①フォーラム全体の流れの確認②フォーラムの当日資料の確認③「みさき百科」の原稿の確認。の 3 点

(1)フォーラム全体の流れの確認

・伊藤自治会長より開催要項（別紙）に基づき内容等を最終確認  
⇒タイトル等の細かな修正を除き、OK。

<修正点等>

・報告① 「大川夏休み自由研究室」⇒「夏休み大川自由研究室」

・報告② 大川への期待（高校教育の視点から）⇒（高校生の視点から）

・ディスカッション①論点整理 大川の取り組みの到達点と今後の方向

⇒ アジアの農村開発と大川の取り組み -大川の取り組みの到達点と今後の方向-

・フォーラム当日の集合時間 12 時 30 分 ⇒ 12 時

・フォーラム（後片付け含む）終了後、反省会を開催する。

(2)フォーラム当日資料の確認

・資料については、1/24（金）までに市みらい政策課にデータを送付。原稿を市で取り  
まとめ、1/27（月）に安藤先生へ送付し、印刷作業をお願いする。

・資料および「みさき百科」は 200 部作成

<修正点等>

・去年のフォーラムで発表した

(3)「みさき百科」の原稿確認について

<修正点等>

・タイトル 「みさき百科」 ⇒ 「みさき百科 2014」

・第 1 章 美崎の歴史 各項目に写真を挿入

・出典は明確に記載する。

・第 2 章 美崎の特産品（農産物）の表に小松菜（H8～）を追加する。

・第 4 章 大川の水草と植物 「故中村一雄先生に捧ぐ」の部分は、はじめに文中に記載  
する。

(4)その他（意見等含む）

・大川活用プロジェクトの取組は、環境問題から取組がスタートした。水草除去等の実

施により一定の成果はあった。しかしながら、導水等の問題については、進展がなく、抜本的な水質改善には至っていない。そこで、今年度は、活用という新たな切り口で取組を進めることとし、「夏休み大川自由研究室」の開催にエネルギーを注いだ。

- ・「大川活用プロジェクト」に活用を付けておいたのは、正解だった。今後、大川をどう活かすのか、子ども達の育つ環境のことを考えながら、方向性を見出していきたい。
- ・次回の寄り合いは、2月25日(火)19時から開催。

【件名】 平成 25 年度大川活用プロジェクト 2 月定例会議『美崎寄り合い』

1 日 時 平成 26 年 2 月 25 日(火) 19 時～21 時

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1)美崎自治会 伊藤自治会長、高野氏、林孝一氏、北出氏、伊藤猛氏、苗村氏、  
山田美鶴氏、山田好延氏、山田章賀氏、戸田氏、山田貴幸氏

(2)京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3)守山市 美崎公園 中村指導員  
環境政策課 井上主任 みらい政策課 木村課長、高田

3 会議概要

○林副自治会長あいさつ

・本日議論すべき項目としては、①大川フォーラムの振り返り②次年度の取組についての 2 点

(1)フォーラムの振り返り（参加者意見）

【総括：次回開催に向けて】

- ・テーマがこれからの大川を考えるであるので、もう少し若い世代の参加が増えるといい。⇒子どもが参加すれば、保護者の参加につながる。
- ・立命館守山から提案があったヒアシンスの水耕栽培など、大川の水を活用した取組を広げていけると良い。
- ・発表後に内容に対する質疑応答の時間があつた方が良かった。
- ・速野学区を中心に自治会外からの参加者も増えてきた。そういった人たちの参加も意識をして、企画内容を検討していく必要がある。外からの参加を意識しつつ、自治会住民の参加も重要であり、同時に自治会の関わりをどのようにつくっていくのかも大きなポイントである。

【その他の感想や意見（フォーラム全般）】

- ・フォーラム全体の流れが非常にスムーズで良かった。1 部（活動報告）と 2 部（パネルディスカッション）の内容に繋がりがあつて良かった。
- ・発表内容の声の一部聞き取れない場面があつたのが残念だった。（発表者がマイクから離れすぎていたため？）
- ・自治会を中心に多くの方に参加をいただけて良かった。
- ・地元選出の国会議員をはじめ、県・市議会議員にも参加いただくなど、この取組への関心が高まってきているのでは。
- ・発表者がやや多すぎたのではないか。もう少し内容を絞り込んでも良かった。
- ・一つあたりの発表時間がやや短かった。もう少し時間があつても良かった。
- ・フォーラム全体の時間は、今の時間（2.5 時間）が適当。パネルディスカッションの時間を短くし、活動報告の時間を確保すべき。
- ・特に、園長先生の発表の中の紙芝居が、視覚に訴える点でも非常に良かった。
- ・夏休み大川自由研究室の参加対象者である小学生に、フォーラムにもう少し来てもらえるようになると良い。
- ・過去の 2 回は大川の活用がメインテーマだった。今回（3 回目）は、夏休み大川自由

研究室をメインに据えたことで、志向が変わり新鮮だった。

- ・「みさき百科」については、良いものが完成したが、フォーラムの中で十分なPRが出来なかった。どこかで、もう少し内容に触れるところがあっても良かった。
- ・当日に参加者へ配布したアンケートの回収率が低かった。(記入する時間がなかったのでは?)
- ・園長先生の発表が非常に良かった。(キーになった。) 園長先生以外にも、幼稚園の先生がフォーラムにたくさん来てくれた。学区制の幼稚園が、地域との連携を重要視している姿勢が伺えた。

(2) 次年度の取組について

【夏休み大川自由研究室】

- ・夏休み大川自由研究室は、もう少し早い時期から準備を進めていく必要がある。ギリ貧にならないよう、内容の更なる充実が求められる。  
⇒来年度は、8月3日(日)に開催することを決定
- ・水鉄砲等の昔遊び楽しそうだった。子どもと高齢者の交流促進にもつながる。老人会の協力が得られると良い。他にしめ縄を使っての輪投げ遊びなどもできるのでは。
- ・休耕地を自治会で借りて、自由研究室の開催に向けて野菜を栽培してはどうか?  
⇒日常管理等をしていくのが難しい。

【今後の進め方等】

- ・サイクリングロードも良いが、ウォーキングロードの整備が出来ると良い。
- ・一気に目標に到達するのは、難しいので、途中の過程(プロセス)を楽しみながら進めていくことが大切である。空芯菜の取組も2年目は、工夫を施したが上手くはいかなかった。
- ・来年度は、是非とも伝統料理教室を開催したい。
- ・竹藪の手入をしてくれる人に、竹藪の竹の子を取れるインセンティブを与えるなどして、維持管理にボランティア的な取活動を取り込むことができないか。
- ・大川の次には、新川の竹藪(市有地)の活用を検討したい。

(3) その他

- ・安藤先生の方で、平成25年度活動報告書(200部)、みさき百科(300部)を印刷作成。3/10までに原稿を入稿。
- ・次回の寄り合いは、3月28日(金)19時から開催。



# 大川だより

第6号 (平成26年1月27日発行)

発行：大川活用プロジェクト

(事務局 守山市湖岸振興検討会)

## 立命館守山高校主催の水環境交流会で新たな地域づくりを探る 美崎自治会館に80名参加 立命館守山中学校・高等学校 教諭 八木良明

8月17、18日の2日間、「水環境研究活動交流会」が立命館守山高校の主催で開催されました。この交流会には、スーパーサイエンスハイスクール3校を含む6校の高校生・教員と立命館守山高校からサイテック部を中心に参加し、2日間にわたり水環境に関わる調査研究活動の成果を発表しあい、交流を深めました。

1日目は立命館守山高等学校を会場に行いました。全体会では市民環境研究所代表(元京都大学教授)の石田紀郎先生の「水環境を琵琶湖で学ぶ」と題して講演があり、「水環境を守ることは社会全体を変えることにつながる。長い目で取り組んでほしい」と強調されました。その後、各校から口頭発表が行われました。ブータンやミャンマーから日本に来ている京都大学研究生を交え、英語での質疑応答も行われました。

講評では、滋賀大学の石川俊之先生から、水環境の現状の原因を探り、その改善に迫る取り組みが多いことを評価いただきました。京都学園大の大西信弘先生からは、水質浄化の独創的なアプローチを評価され、水環境を「よい環境」「悪い環境」と一面的にとらえないことの重要性に言及されました。京都大学の山敷庸亮先生は、水質の結果を嘆くのではなく、その過程を調べて大人に発信していくことが重要であるとエールを送られました。

2日目は美崎自治会館を会場に、宮本和宏守山市長と市職員、美崎自治会長をはじめとする地域の皆さん、京都大学安藤先生と研究員の皆さんも参加しました。総勢80名が集い、「大川活用プロジェクト」と参加校での地域連携の経験交流を行いました。

伊藤自治会長からの開会あいさつの後、参加者の自己紹介では各校での地域連携の簡単な紹介

もしていただきました。その後、「大川活用プロジェクトの概要」を田中滋さんから、8月3日の「大川夏休み自由研究室」の様子を立命館守山高校からVTRを交えて報告しました。高校生から、大川プロジェクトについての質疑では大川の水質とその改善方法について積極的に質問があり、和やかな雰囲気での会が進みました。

休憩を挟んで、守山市長から大川の歴史や「水網」を生かしたまちづくりについて触れたあいさつの後、静岡県加藤学園高校と横浜サイエンスフロンティア高校からの地域連携の報告を受け、意見交流を行いました。高校生から、地域交流は参加する子どもも大人も楽しいことが大事ではないか、自治会の方からは、参加者が一緒に「食べる」ことも大切にしたい、などの意見が出されました。最後に、安藤和雄准教授(京都大学東南アジア研究所)から、地域行事が少なくなってきている状況の中で、未来を作る子どもたちを中心に据えた環境との関わりを大切にしたいこうした取り組みが、地域をまとめていく新しい地域づくりのあり方ではないかとのまとめをしていただきました。

昼食は、美崎自治会館で滋賀県名物の「フナ寿司」と「イサザの稚魚の佃煮」を出していただき、生徒たちは、目を白黒させながら「フナ寿司」に挑戦。楽しく有意義な交流会となりました。



美崎自治会館前で記念撮影

## 大川プロジェクトに参加して

守山市 環境政策課 井上

大川の再生と今後の活用を地域の皆さん、京都大学、立命館守山中学・高等学校、行政が連携して検討・実施する「大川活用プロジェクト」も活動を開始してはや3年目に突入しました。

私は、昨年の10月より当プロジェクトに参加させていただきましたが、美崎自治会の皆さま、特に漁業・農業を営まれている比較的若い世代の方々が積極的に参加され、自治会としての団結力を痛烈に感じたのを憶えています。

その団結力を活かし、当プロジェクトでは、現在に至るまで、大川を「里川」と位置づけ、次世代の子ども達へ大川を「原風景」としてつないでいくのに相応しい形へと再生させるため、水草除去、自然観測会、立命館 Sci-Tech 部生物班指導による環境学習会および水質改善に向けた実証実験、水質調査、「空芯菜」等による植生浄化の試み等の様々な取組みを進めてきました。さらには、次世代への継承事業として、これまでの「大川子ども環境学習会」に加えて、「夏休み大川自由研究室」も本年度から開催されました。それを通じて、元気な子どものイメージそのままの姿を目の当たりにでき、次世代への力強さや安心感も感じる事ができました。

また、大川の未来を考え、大川のあるべき姿をとりまとめた「大川未来予想図」が、平成24年度に、平成23年度から継続して実施している「美崎寄り合い」を重ねることにより完成され、「第2回大川フォーラム」において発表されました。

いよいよ今後は、「大川未来予想図」の具現化に向けた取り組みに挑むフェーズを迎えます。立ちちはだかる様々な障壁を、地域住民を中心として学術機関、行政等が連携し、知恵を出し合い、一丸となって突破し、その潮流が市内

全域へ波及していくことを目指します。

(旧大川橋上流部)

砂浜があり、水が流れ、小魚の泳ぐ川を再現し、子ども達も水に触れ、川を楽しめるゾーンとしての整備をする。



大川再生ゾーン

(旧大川橋から概ねさざなみ街道の接点まで)

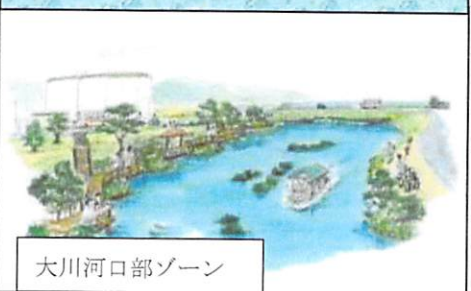
再生大川ゾーンと河口部ゾーンを結ぶ回廊と位置づけ、沿川の修景、沿道の環境整備等を進める。



回廊ゾーン

(大川河口部)

湖と川の水景を楽しむ憩いと交流の拠点としての整備をする。



大川河口部ゾーン



新聞広報等掲載記事

夏休み大川自由研究室（2013. 8. 3）



ニユーズな\*  
\*写真

3日、地域の自然の魅力を感じる「夏休み大川自由研究室」が美崎町の美崎自治会館で開かれた。市内の小学生約50人が参加し、大川での笹を使った漁業体験や畑での夏野菜収穫、竹の食器作りなどを体験した。昼には川魚と夏野菜に加えて流しそうめんも行われ、地域の大人も楽しんだ。子どもらに故郷の良さを感じてほしいと、大川自然博物館研究会（永井即士・代表）が今年初めて企画。永井代表は「地域や自然と交流できる場が大切。今後も続けたい」と語った。

（2013年8月11日 守山市民新聞）

水環境研究活動交流会 (2013. 8. 18)

水環境研究 高校生ら発表

守山で京滋や静岡などの7校



水環境をテーマにした研究活動について発表した交流会(守山市・美崎自治会館)

水環境をテーマに研究を行っている高校生らが成果発表をする。美崎自治会館で

開かれた。立命館守山高や八幡工業高のほか、京都府や静岡県の高校生たちが参加した。取り組んでいる研究の内容や地域連携について発表しようと、立命館守山高が計6校の高校生を招いて初めて開いた。地元的美崎自治会の関係者ら計約80人が訪れた。

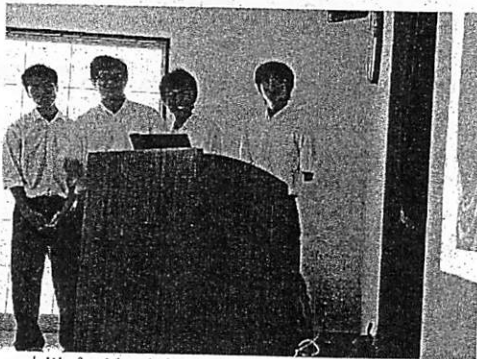
同自治会は、同市今浜町内にある野洲川の旧支流「大川」の浄化活動を続けている。この取り組みに参加している立命館守山高のサイテック部が、同川のヘドロを原料にしたチップで水中の有機物を分解する研究について発表。同自治会も浄化活動の内容について報告した。

2013. 8. 19 産経

(2013年8月19日 京都新聞)

立命館守山高生ら他県生徒と交流会

2013. 8. 19 産経



大川プロジェクトの取り組みを発表する立命館守山高の生徒ら。美崎自治会館

「大川」守る活動を紹介

野洲川南流の活用を検討する「大川活用プロジェクト」に参加する私立立命館守山高(守山市三宅町)の生徒が、同様に水環境を学ぶ他県の高中生らにプロジェクトでの取り組みを発表し、意見交換する交流会が18日、同市今浜町的美崎自治会館で開かれた。神奈川や静岡県の高校生や自治会関係者など約80人が集まり、発表に真剣に耳を傾けた。

明した。発表を行った同校2年の浜野優貴さん(16)は、「自分たちの取り組みをたくさんの人に聞いてもらったのは次のステップへのモチベーションになった」と話した。

守山市を流れる野洲川南流は大川と呼ばれ、かつては地域住民の生活に根付いていたが、昭和54年の野洲川の洪水対策改修工事で流れがほぼなくなり、それに伴う水質悪化で地域から離れた存在になっていた。同プロジェクトはそんな大川を再生しようと、地域住民や同校で科学を学ぶ生徒らが立ち上げ、水質調査や水草除去をしている。

この日は同校サイテック部の生徒4人が、今月3日に大川周辺で行われた地元の子供たちとの交流などについて発表。大川での小魚採取体験の様子などを写真で紹介し、実際に自然と触れ合いながら環境意識を高めてもらう意義について説

(2013年8月19日 産経新聞)



## 大川フォーラムアンケート用紙

### アンケートのお願い

本日はフォーラムにご参加をいただきありがとうございます。プロジェクトでは引き続き大川の取組みを進めていきたいと考えています。つきましては、下記のアンケートにご協力をお願いします。 【大川活用プロジェクト】

**問1. あなたについてお答えください。(○で囲んでください)**

男 女： 男 女

居住地： 美崎自治会 美崎自治会以外

年 齢： 10歳代以下 20～30歳代 40～50歳代 60歳以上

**問2. 「夏休み大川自由研究室」の取組みについてお聞かせください。**

(一つを選んで○をして下さい)

①意義があるので続けたらいい。

②効果があるとは思えない。

③もっと工夫をしたほうがいい。

(ご提案： )

**問3. 大川の上流部(地球市民の森ふるさとゾーンの隣接地。約30アール)は「基本的考え方」では大川再生ゾーンとして昔の大川の再現をめざす区域としていますが、具体的な整備についてお聞かせください。(一つを選んで○をしてください)**

①砂浜があり、小魚が泳ぎ、水に親しめる河川環境

②いろんな昆虫が生息できる林

③地域住民が利用できる施設を整備(例：東屋やバーベキュー用施設など)

④その他

(ご提案： )

**問4. 大川の水質などの環境改善について、ご意見をお聞かせください。**

**問5. その他、今後の大川の取組みについて、自由なご意見をお聞かせください。**

## 大川フォーラムアンケート集計結果

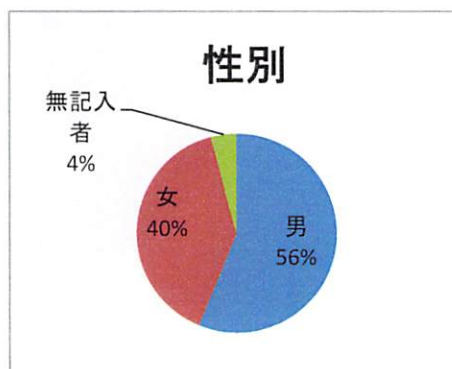
### 平成25年度大川フォーラムアンケート 結果一覧

アンケート総数：48

問1 あなたについてお答えください。

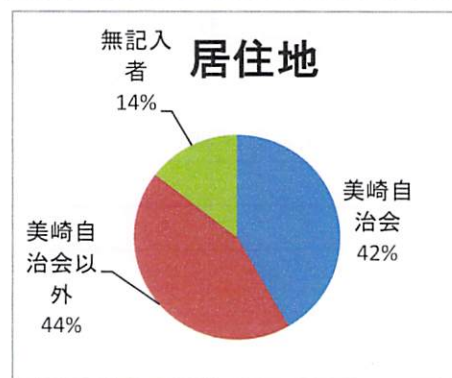
性別

男	27
女	19
無記入者	2



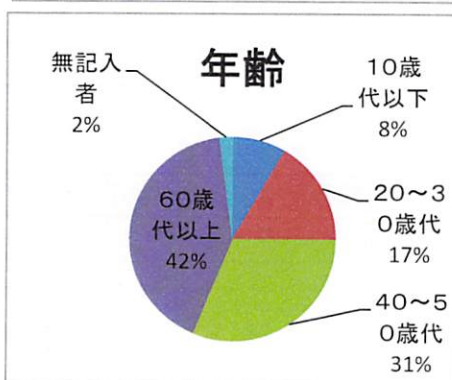
居住地

美崎自治会	20
美崎自治会以外	21
無記入者	7



年齢

10歳代以下	4
20～30歳代	8
40～50歳代	15
60歳代以上	20
無記入者	1



問2 「夏休み大川自由研究室」の取組みについてお聞かせください。

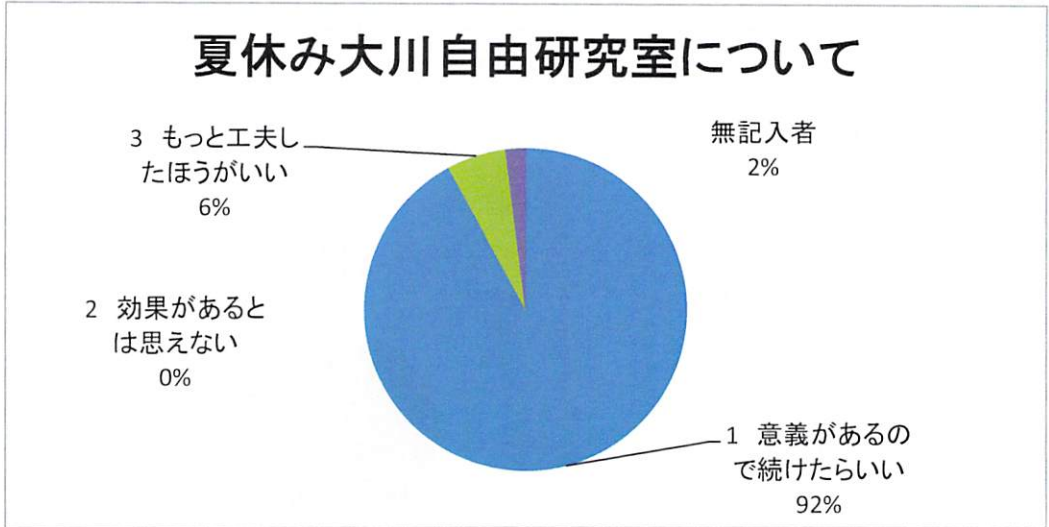
1 意義があるので続けたい	46
2 効果があるとは思えない	0
3 もっと工夫したほうが良い	3
無記入者	1

■「3 もっと工夫したほうが良い」の内容

子供たちの多数の参加と同じように、おじいちゃん、おばあちゃんの高齢の方の参加も願えるような企画案を考えて頂きたい。

子ども達の手ですすめるもので

美崎が軸となり・・・参加できる子どもは将来的には速野の子どもたちに広げていけるといいなと思いました。

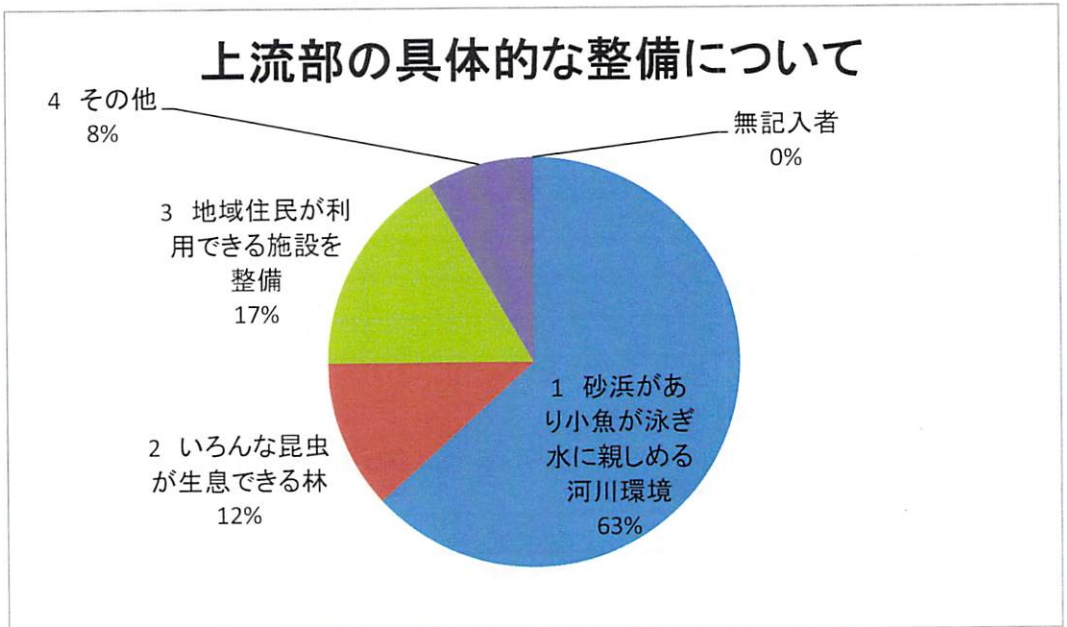


問3 大川の上流部は「基本的考え方」では大川再生ゾーンとして昔の大川の再現をめざす区域としていますが、具体的な整備についてお聞かせください

1 砂浜があり小魚が泳ぎ水に親しめる河川環境	38
2 いろんな昆虫が生息できる林	7
3 地域住民が利用できる施設を整備	10
4 その他	5
無記入者	0

■「4 その他」の内容

①+②+③
①も②も③も。サイクリングロードetc
気軽に利用できる
里川的な環境
子ども達の手ですすめるもので
バーベキュー施設などはあったら面白いが、年中使われるか心配です
昔の大川橋付近のようなイメージ(大川橋(木橋)の再成)





問4

大川の水質などの環境改善についてご意見をお聞かせください

- ・河川、森林等、人が活動するスペースに危険性がないようにすること
- ・環境学習が出来る施設を構築すること
- ・川が汚れないよう、常に流れる仕組みづくり

浮島のアイデアは楽しそう。でも浮いているので、雨、風、落葉にかなり弱そうな気がします。屋外で何ヶ月も経過する時の事はどの程度予想しておられますか。

川の近くの地域で除草剤や農薬、野菜付で捨てる人がいるが川の水質に影響がないのか？

環境の保全と地域活性化のバランスが大切、国、県、市の規制緩和も必要  
頑張りたいと思います。

子どもが水で遊べる、魚がつかめる環境が大切と思いました。

子どものふれ合いがたくさんありいいと思います。しかし水質は何も変わってないので水質がよくなる作業を子どもたちとできたらもったいいと思います。

このプロジェクトは私たちの暮らしの見直しと再生だと思えます。利を得て粗末にしてしまったものの尊さに気づいてやり直そうとする、ごく当たり前の人の暮らしや生き方だと感じます。子どもたちに、そうした生き方を教えてやれる場になるといいですね。(フォーラムの間中、「いいにおい」ができて・・・こういうことが子どもたちの記憶にも残してやりたいです)

昨年度までは、立命館守山と自治会が別々に、水質改善のための研究をしていましたが、交流会などを通して、つながりを持つことができたので、浮島づくりなど一緒にしていければと思います。

魚、ボテ、ハイはブラックバスなどに食べられていなくなっているのかな。

水耕栽培を地域の方と一緒に進めていきたいです。

水質浄化され魚が棲む河川に

通水能力の向上

長く続ける

長年かけて少しずつ変化してきたものをすぐにもどすことはむずかしい。20年先を見ての計画をくんでいくといい。

人が自然とたわむれ地域の人のかけがえのない場所になるようなせいびをおこなってほしい。

ヒヤシンスの水耕栽培を広めよう。

ヒヤシンスの水栽培はとても良い活動だと感じた。子ども達と一緒に取り組めることでもあり、少しでも大川を身近に感じられると思う。方法として実践のしやすさと継続して取り組めるかどうかということも意識して地域で努めていきたい。

水草などは定期的に処理しなければいけないと思う

水をきれいにするには水の入替を行う事が重要と思います。(適切な入替率の設定)

昔の野洲川のよさがある環境ができるとよいと思います。

野洲川から導水検討・・・地球市民の森(入口から)

やはり、「流れ」が大事・・・絶対条件化と思う。立命館学生の発表の中にもありましたが、改善していくプロセスも大切で、より多くの住民が関わって進めてゆく方向でお願いしたいです。

立命館の提案の推進。

立命館の取組に期待しています。



問5

その他、今後の大川の取組みについて自由な意見をお聞かせください

一日も早く大川の水が美しくなって皆の集えるようお願いしたい。

おうみんち～地球市民の森、大川～琵琶湖を結ぶラインの活用はとてもおもしろそうだと思います。シダックスさんのレンタサイクルは個人的に楽しみです。その他、ウォーキングイベント(ウォーキングとおうみんちでのランチをセットにするとか)とかあると楽しそうです。

大川、きれいになるのはうれしいです。ただし、バーベキューや東屋つくって、外部から人+ゴミが大量にくるのはあまりうれしくありません。だから問3-③(地域住民が利用できる施設を整備(例:東屋やバーベキュー用施設など))には反対です。

大川にいる生物を捕まえて小さい水族館みたいなのをつくったら子どもも喜んでもっと大川に興味をもつと思います。一番大切なことはこの活動を続けることだと感じました。

大川フォーラムにもっともっと多くの人に参加されることを願っています。地域を活性化するため大変よい取組だと思います。第1回から参加させてもらっていますがすごい成長ぶりだと思います。ずっと続けた活動であるとよいと思います。年配の人でも元気な人がいると思います。その人達も何かできることを手伝われたらと思います。

暮らしの中での身の丈のとりのくみが、一番長続きするような気がします。立命館の発表にあった「今まで、ただ実験してきた。でも目指す方向が定まったことで、ヘドロセラミック→水耕栽培に変更できた」が印象的でした。美崎と幼稚園(教育)と行政が『同じ目標』に向かうことが大切だと思います。幼稚園の取組を小学校教育にもつなげてほしいです。

子供達が安心、安全に遊べる場所に。駐車場が少ないと思います。

子どもたちが大人になった時に大川周辺で友達や地域の人と共に遊んだ育った経験が心の糧になり、いろんなことがある中で心を支えてくれるものになると思います。そのために子どもの目線に合ったものを考えていくことに、私なりの思いも伝えていきたいです。今後よろしくお願ひします。

今回初めて参加しました。皆さんの発表や意見を聞いてわくわくしたり、もっと自分で考えたり、出来ることがあるかと思いました。自分が活性化するために、いろいろなことができそうです。

少しずつ変わっていくということを実感しながら一つ一つスモールステップで取り組んでいきたいです。

地域の方々とは違うかもしれませんが、僕は、地域外からの注目が「里川」にしていると思っています。プレゼンテーションでも述べたように、PR活動(イベントにテレビ局を呼ぶなど)を積極的にすればと思います。釣り大会や写生大会などを学校ぐるみでやってみてはどうでしょうか？

地域の子もたちが、自分達の住む美崎、大川について、知ること、体験することを積み重ねることで、もっと愛着をもって誇りをもてるように、今後もこの大川フォーラムを通して、自分自身が美崎、大川を知り、学んでいきたい。

ディスカッションの席で安藤先生が「20kmを走ってきました。頭が大川(溶存酸素不足!?)の状態です」嬉しい先生ですね。ただ、コーディネーターの話が時間を取りすぎたような・・・

速野学区民が多数参加のイベントを

他の自治体ではやっていない初めての取組みを行うことで、他の自治体や、周辺の住民の方に興味をもってもらうのがよいのではないのでしょうか？

もう少し、大きくこの問題をとり上げ、より地域住民の興味、危機感を持たせる。

もっと住民に参加して欲しい

昔のように魚がいて「藻」があの状態を望む。



大川活用プロジェクトの「寄り合い」(2013年7月29日安藤撮影)

発行：

大川活用プロジェクト

滋賀県守山市今浜町 2761-35

電話：077-585-1019

メール：(守山市役所) miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

ISBN978-4-906332-20-5